

日本福祉大学 スポーツ科学センター年報 令和元年度版



目 次

1. はじめに	ーセンター長挨拶ー	p.1
2. スポーツ科学センターの活動		p.2
3. スポーツ強化支援政策		p.3
1)	リーダーズキャンプ	p.3
2)	主務・マネージャー研修会	p.9
3)	SMT 講習会	p.12
4)	各部の活動報告	p.15
5)	UNIVAS リーダーズキャンプ	p.36
4. 美浜キャンパススポーツ大会		p.42
5. みはまスポーツクラブの活動支援		p.47
6. 車いすバスケットボール交流会		p.48
7. NCAA コンベンション視察研修		p.51
8. 美浜町スポーツ推進計画策定について		p.71

1. はじめに ーセンター長挨拶ー

2019 年度スポーツ科学センターの成果とこれから

2019 年度のスポーツ科学センターの事業は、「スポーツ系特別強化指定部への活動支援及びスポーツ振興事業」と「みはまスポーツクラブ活動事業をはじめとする美浜町におけるスポーツ推進」の大きく 2 つに分類できる。詳しい活動内容は各報告に委ねるが、ここではそれらの活動について概括し、センターのこれからの取り組みにつなげたい。

まず、「スポーツ系特別強化指定部への活動支援及びスポーツ振興事業」についての取り組みを紹介する。特別強化指定部への活動支援として、昨年度からの継続事業である特別強化指定部員を対象とした全 10 回の「スポーツメンタルトレーニング講習会」の開催、各部のリーダーを対象とした「リーダーズキャンプ」における各部の情報交換・意見交換を目的としたグループディスカッションの実施、さらに「主務・マネージャー研修会」を実施し特別強化指定部同士の学びや交流の機会を設けることができた。また、本学出身で車いすバスケットボール日本代表の宮島選手と大島選手を含む 6 名の車いすバスケットボール選手を招待し、特別強化指定部である男女バスケットボール部との交流会を実施した。一般学生を対象としたスポーツ振興事業では、美浜キャンパスの学生限定ではあるがバレーボール大会を実施し、9 チーム 80 名の学生の参加があった。

次に、「みはまスポーツクラブ活動事業をはじめとする美浜町におけるスポーツ推進」についての取り組みを紹介する。「みはまスポーツクラブ」の法人化に伴い、引き続き広報活動を継続し、町民の主体的な組織運営をめざした取り組みをサポートすることができた。学内で実施しているプログラムについては円滑に運営できたが、学生スタッフの育成が課題となっている。スポーツプログラムを提供する地域貢献事業については、2020 年 3 月に成人対象及び小学生対象の水泳教室を実施予定であったが、新型コロナの影響で実施を見送らざるをえなくなった。来年度はぜひとも実施したい事業である。これまでの美浜町におけるスポーツに関わる取り組みを整理し、今後 10 年間に取り組むべき施策など総合的かつ計画的にスポーツの推進を図るための基本方針として、「美浜町スポーツ推進計画」を 2020 年 2 月に策定することができた。今後は、適切に計画を進行させる体制づくりが必要となる。

今後は、日本福祉大学も加盟している 2019 年 3 月に創設された「大学スポーツ協会 (UNIVAS)」の設立理念である、「大学スポーツの振興により、『卓越性を有する人材』を育成し、大学ブランドの強化及び競技力の向上を図る。もって、我が国の地域・経済・社会の更なる発展に貢献する」ことをめざした一層の取り組みが求められていることを自覚し、日本福祉大学のスポーツの発展及び美浜町を中心とした地域のスポーツの発展に寄与する活動を展開していきたい。

(センター長 山本 秀人)

2. スポーツ科学センターの活動

(1) 活動目的

- 1) スポーツに関する学生教育
- 2) 課外活動の支援
- 3) 地域と連携した教育実践活動など、本学の特色を生かした総合的なスポーツ振興に関する諸施策を立案し、事業を推進する

(2) 2019 年度の主な活動

- 1) みはまスポーツクラブ事業の展開（4 月～3 月）
- 2) SMT（スポーツメンタルトレーニング）講習会開催（5 月～10 月）
- 3) 特別強化指定部リーダーズキャンプ開催（8 月）
- 4) 美浜キャンパススポーツ大会開催（11 月）
- 5) 車椅子バスケットボール交流大会開催（12 月）
- 6) NCAA コンベンション視察研修（1 月）
- 7) 日本福祉大学杯少年サッカー大会開催支援（2 月下旬）
- 8) 特別強化指定部主務・マネージャー研修会開催（3 月）
- 9) 美浜町スポーツ推進計画策定支援
- 10) UNIVAS との連携
リーダーズキャンプ参加（2 月）

3. スポーツ強化支援政策

1) リーダーズキャンプ

- 主 旨 ① リーダーとして必要な知識・教養を身につけること
 ② 他の部活のリーダーと話をすることによって情報や悩み等を共有し、今後、コミュニケーションが取れる関係を築くこと

日 時 2019年8月8日(木) 9:30 集合

場 所 SALTO3 階 スポーツ科学センター

参 加 者

	部活名	氏名	学部	備考
1	I 部サッカー部	四十田 蒼	社会福祉学部	
2	I 部サッカー部	笹倉 康佑	スポーツ科学部	
3	ラグビー部	三浦 賢人	社会福祉学部	
4	硬式野球部	大崎 太貴	こども発達学部	
5	硬式野球部	臼井 光輝	スポーツ科学部	
6	女子ソフトボール部	宮田 遼香	社会福祉学部	
7	男子ソフトボール部	森川 凱貴	社会福祉学部	
8	女子バスケットボール部	新井 菜月	看護学部	
9	女子バスケットボール部	岡田 かれん	スポーツ科学部	
10	アメリカンフットボール部	田原 義宏	社会福祉学部	
11	I 部硬式テニス部	武石 柊平	社会福祉学部	遅刻
12	男子バスケットボール部	小石 璃音	スポーツ科学部	
13	男子バスケットボール部	大橋 智海	スポーツ科学部	
14	I 部バドミントン部	安藤 拓実	社会福祉学部	
15	準硬式野球部	浅田 能英	こども発達学部	欠席
16	準硬式野球部	北村 有晟	こども発達学部	欠席
17	女子ラクロス部	宇都 宮綾	社会福祉学部	
18	女子ラクロス部	松浦 安奈	こども発達学部	
19	水泳部	佐藤 華純	スポーツ科学部	
20	陸上競技部（午前のみ）	井内 月野	スポーツ科学部	
21	陸上競技部	加藤 皓大	スポーツ科学部	
	陸上競技部	高橋 峻也	経済学部	
22	NFUゴルフ部	久保田 康輝	社会福祉学部	
23	合奏研究吹奏楽団	村田 由希子	こども発達学部	
24	弓道部	清家 将太	こども発達学部	
25	弓道部	大脇 涼雅	社会福祉学部	
26	卓球部	高場 祥平	スポーツ科学部	遅刻
27	卓球部	三浦 和磨	スポーツ科学部	遅刻
	アーチェリー、男子ラクロス合宿			

内 容

時間	内容	備考
9:30	集合 センター長 挨拶 本日の予定について	
9:45 10:15 11:00	講演:「日本福祉大学が思い描く大学スポーツの将来像」 ワールドカフェ(5～6 グループ) 実践報告(20 分×3 名) ・サッカー部:笹倉康佑 ・女子バスケ部:新井菜月 ・陸上部:井内月野	山本秀人先生 (スポーツ科学センター長)
12:30 -13:20	昼食:「夏バテ防止」メニュー	山本和恵先生 監修 フリッパー提供
13:20-	ポスター作り :2019 シーズン後半戦に向けて	SALTO1 階に掲示
15:00 15:15	総括・集合写真・アンケート記入 解散	

研修会の様子

< 講演: 日本福祉大学が思い描く大学スポーツの将来像(山本秀人センター長) >



<ワールドカフェ>

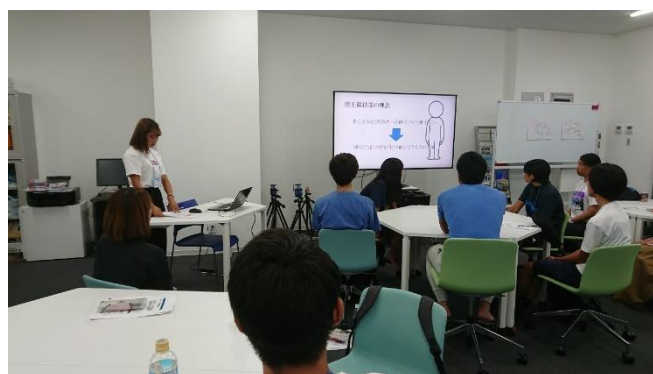
下記のうち興味のあるテーマのごとに集まり、ディスカッションを行った。

- ①私生活の管理 ②スタッフとのコミュニケーション ③選手とのコミュニケーション
④リーダーシップ ⑤練習や試合のモチベーション



<実践報告>

各部で実践している取り組みや試合の目標等をスポーツ科学センターが推薦したサッカー部、女子バスケットボール部、陸上競技部がプレゼンした。



<昼食:「夏バテ防止」メニュー>

スポーツ食堂フリップーさんご協力(山本和恵先生監修)のもと、スポーツ栄養を意識した食事を全員で食べた。

【主菜】

鮭のムニエル タルタルソース添え



1人分

鮭・・・約 70g

野菜・・・約 60g

卵・・・1/2 個

・鮭のムニエル

鮭・・・たんぱく質、ビタミン D、ビタミン B12、ナイアシン、パントテン酸、リン

・タルタルソース

ゆで卵、玉ねぎ、しそ、脂質カットマヨネーズ、塩、胡椒、酢

・添え野菜

サニーレタス、レタス、キャベツ、トマト等

【副菜】

豚肉の長芋巻



1人分

豚肉・・・約 30g×3 枚

約 30g×4 枚

野菜・・・約 60g

・豚肉のイモ巻

豚肉・・・たんぱく質、ビタミン B1、ビタミン B6、ナイアシン

長芋・・・炭水化物、ビタミン B1、ビタミン C、葉酸、カリウム、亜鉛

・添え野菜

もやし、ニラ等

【汁物】

冷製にゅうめん



1人分

素麺・・・約 1/3 把

野菜・・・約 20g

・素麺・・・炭水化物

・つゆ等・・・大根おろし、モロヘイヤ、なめこ、のり、鰹節等

【主食】

干しえびとジャコの
カリカリふりかけご飯



1人分

ご飯・・・約 250g

約 300g

ふりかけ・・・約 60g

・ご飯・・・炭水化物、糖質

・ふりかけ・・・たんぱく質、ビタミン D、ビタミン B12、カルシウム

【デザート】

オレンジ

ヨーグルトのはちみつがけ



1人分

ヨーグルト・・・約 60g

オレンジ・・・1/2 個

・ヨーグルト・・・脂質、たんぱく質、ビタミン B2、モリブデン、カルシウム

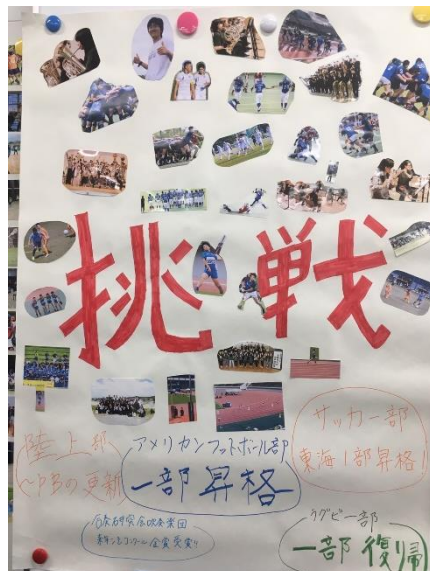
・オレンジ・・・ビタミン C、葉酸





<ポスター作り>

事前に各部に写真を準備してもらい、4グループに分かれて2019シーズン後半に向けてのポスターを作成した。参加者全員でテーマを決め、「繋ぐ」「挑戦」「飛躍」「はばたく」をそれぞれのポスターに描いた。
(SALTO1階に掲示)





総括

今年度で3回目となるリーダーズキャンプは、横のつながりを深めることを1つの目的としてプログラムを企画した。昨年度は台風の影響で半日のみの実施で、しかも外部の方の講演が中心であったため、学生からの要望も多くあったこともその理由である。部のキャプテンや主将としてチームを引っ張っている学生同士だから共感できる部分も多く、すべてのプログラムにおいて積極的な会話(ディスカッション)が行われていたように感じる。また、午後のポスター作りでは、和気あいあいとした雰囲気もあり、強化指定部間での仲間意識というのも感じられた研修会であった。

(文責:中尾 綾)



2) 主務・マネージャー研修会

主 旨 主務・マネージャーの役割について理解を得ると共に、他の強化指定部との交流・情報共有を行うことで各部活動の発展につなげる。

日 時 2020 年 3 月 3 日 (火) 13:00～16:00

対 象 日本福祉大学強化指定部 A および B における主務またはマネージャー

内 容

時 間	内 容	備 考
12:45	集合	
13:00～13:30	UNIVAS リーダーズキャンプ報告	各部の主将参加
13:30～14:40	今年度の活動報告会(下記部を推薦) ・ラグビー部 ・サッカー部 ・女子ソフト部 ・アーチェリー部 ・男子バスケット部 ・アメフト部	発表時間:各部 5 分程度 発表資料:パワーポイント
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:50	ワールドカフェ	
15:50～16:00	研修の振り返り・写真撮影・解散	

【UNIVAS リーダーズキャンプ報告】

《内容》

- リーダーズキャンプスケジュール、目的紹介
- VSS(Vision Story Scenario) マネジメントについての紹介
- 元ラグビー日本代表 廣瀬俊朗氏の講演
①1 日 1 声 ②ニックネームで呼ぶ ③居場所を作る ④場作り ⑤なんのために勝つのか ⑥リーダーシップグループの確立 ⑦0.99 か 1.00 は毎日続けることで大きな差になる ⑧キャプテンは誰かのマネではなく、自分らしいキャプテンを作る

《感想》一部抜粋

- キャプテンの考え方が行く前と帰ってきてからで変わったのが分かった。自分の部活でも共有していきたい。
- チームの中で自分の居場所やチームに必要なと思われる存在に 1 人 1 人がなれることが大切だと思いました。
- VSS マネジメントを試してみたいと思った。
- キャプテンがチームでどういった役割を果たせばよいのか改めて知れて自分も視野が広がった。
- このようなキャンプがあったことを始めて知りました。また、キャプテンとしての責任と役割について改めて多くの事を知れる機会だった。

【実践報告】

《内容》

今回は強化指定部 A よりラグビー部、サッカー部、女子ソフト部、強化指定部 B よりアーチェリー部、男子バスケット部、アメリカンフットボール部に実践報告をお願いした。

《感想》一部抜粋

- この機会では他の部活の活躍や現状をしることができたので、とても良かった。
- お互いの部活の様子を知ることが出来て、親近感が湧いた。
- それぞれ部での普段見れない一面や活動が知れて、自分たちも頑張ろうと思った。
- 他の部活がどのように練習しているのかを知れる良い機会であった。自分の部活より多くの時間を練習に費やしている部活ばかりで驚いたし、他の部活も応援しようという気持ちが増した。

【アイスブレイキング・ワールドカフェ】

《内容》

ワールドカフェ

- 選手のモチベーションについて
- ミーティングの手法について
- 部の組織について
- 主務・マネージャーの役割・仕事内容について
- 部の規則について

以上 5 つの項目に分かれ、ディスカッションを行った。

《感想》一部抜粋

- それぞれの部活の相談や悩みを聞くことができ、そして意見を出し合ったことがとても良い機会となった。
- 初めはなかなか意見を出し合えなかったが、話を振ることで全員が話して沢山の意見が出てきたので良かった。
- 個人競技や団体競技で課題になる部分が違うこともあり、お互いにアドバイスを出し合えたように感じた。
- 自分たちが所属している部活では出てこないような意見が出てきたので、とても貴重な時間だった。
- 他の部活も自分たちと同じような悩みを抱えていて、気軽に相談できたり、対応を他の部ではどうしているのかを聞けて良かった。





総 括

今年度後期には特別強化指定部への支援として「主務・マネージャー研修会」を行った。初めに今年度初めて UNIVAS 主催でおこなわれた「リーダーズキャンプ」においてどのような研修が行われ、どのようなことを学んだか 2 名に報告をしてもらった。そのため最初の 30 分のみ主将にも参加してもらった。報告では 2 名ともが VSS マネジメントの内容および感想について報告があった。多くの学生からも聞いた話を今後自分のチームで生かしていきたいとの感想が聞かれた。

実践報告では、各部における 2019 年度の取り組みを発表してもらった。全体的にあった大会、地域貢献活動を報告しているに留まっていたため、次回はマネージャーとしての経験、苦労していること、やっていて嬉しいこと等も含めて、話をしてもらうように事前の段階で話を進めていきたい。

ワールドカフェでは主務・マネージャーという立場での悩みや苦労を題材にしてディスカッションを行った。今回はアイスブレイキングなどを行わずに始めたが、自己紹介を班ごとに行ってスムーズに話し合いを進めることができていた。発表も各班ともにわかり易くまとめられていた。このような研修会を行うと毎回感想に書いてあるが、他の部活との交流を行いたいという意見が多かった。

(文責 坂口結子)

3) SMT 講習会

【目的】

本学において有意義なスポーツ活動を行うためには、良好な心・技・体の獲得が必要である。スポーツでは心理面の向上を目的としたスポーツメンタルトレーニング(SMT)が行われ、徐々に日常のトレーニングに含まれるようになってきたが、計画的・組織的な実践は、十分に行われていない。そこで、その理論と技法について学ぶ機会を設けて、強化指定部員が競技力の向上を図るための心理スキルを獲得出来るようなサポートを行う。

【参加者】

	名前	部活名	役職	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	出席回数
1	村上純菜	女子ソフト部	副主将	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	6
2	今泉彩乃	女子ソフト部	トレーナー	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	9
3	時田実咲	女子ソフト部	選手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
4	穴井結夏	女子ソフト部	選手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
5	安藤壱起	アーチェリー部	選手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
6	佐藤百音	アーチェリー部	選手	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	9
7	山本奈生子	アーチェリー部	選手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
8	金田 匠未	男子バスケット部	マネージャー	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1
9	明石 奈央	男子バスケット部	マネージャー	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	9
10	西村 唯那	男子バスケット部	マネージャー	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	9
11	門司 拓也	男子ソフトボール部	マネージャー	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	6
12	鈴木 菜々瀬	男子ソフトボール部	マネージャー	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	9
13	宇田津 歩	男子ソフトボール部	マネージャー	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	8
14	若林 聖空	男子ソフトボール部	マネージャー	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	5
15	山崎 涼香	女子バスケット部	マネージャー	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	7
16	川合 琴子	女子バスケット部	マネージャー	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	4
17	伊藤真凜	女子バスケット部	選手	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
18	奥村美優	女子バスケット部	選手	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	4
19	2名/15名	硬式野球部	選手	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	7
20	2名/15名	硬式野球部	選手	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	7
21	森脇 菜生	アメフト	マネージャー	×	×	○	×	×	×	×	×	○	○	4
22	吉田恵矢	水泳部	マネージャー	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	4
23	藤本一輝	ゴルフ部	選手	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1
24	山口徹朗	ゴルフ部	選手	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×	3
25	末房裕章	サッカー部	主将	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	9
26	加藤莉奈	女子ラクロス部	選手	○	×	×	○	○	×	×	×	○	×	4

【担当者】

荒木 雅信(スポーツ科学部・日本スポーツ心理学会認定上級 SMT 指導士)

山本 真史(スポーツ科学部・スポーツ心理学)

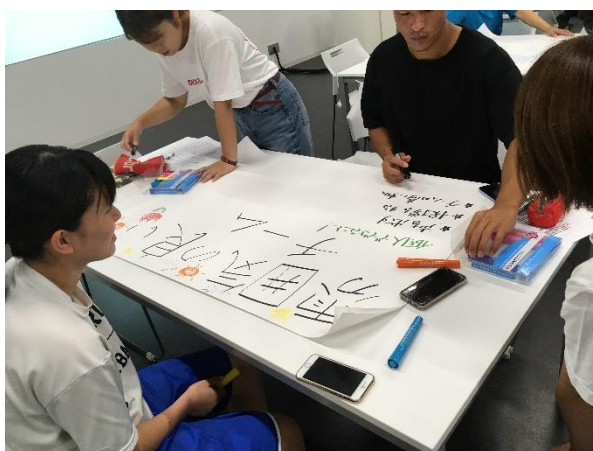
中尾 綾 (スポーツ科学センター)

【講習プログラムおよび日程】

回	日 時	内 容	担当者
1	5 月 23 日 (木) 13:25～	開講式, 導入	荒木
2	5 月 30 日 (木) 13:25～	イメージとは	山本
3	6 月 6 日 (木) 13:25～	リラクセーション(呼吸法・筋弛緩法)	中尾
4	6 月 20 日 (木) 13:25～	クラスタリング	荒木
5	7 月 4 日 (木) 13:25～	風景構成法	荒木
6	7 月 18 日 (木) 13:25～	サイキングアップ	山本
7	9 月 19 日 (木) 13:25～	チームビルディング	中尾
8	10 月 3 日 (木) 13:25～	ポスター作り	荒木
9	10 月 17 日 (木) 13:25～	モチベーションビデオ作成	中尾
10	10 月 31 日 (木) 13:25～	講習の振り返り(ディスカッション), 修了式	荒木

【講習会の様子】





【今年度の振り返りと次年度に向けて】

今年度は、「イメージで動く」をテーマに 5 月から 10 月にかけて全 10 回の講習会を実施した。受講者の出席状況をみると、全日程参加した学生もいれば 2～3 回のみの参加学生もあり、意欲に差が感じられた。その中で、積極的に参加している学生同士のグループワークは回を重ねるごとに意見交換が活発に行われ、部活動を越えた学びの場となった。

次年度以降の課題としては、次の 3 つをあげる。1 つ目は、学生の単発での参加をなくすために、基本的には全日程参加という条件をきちんと設けて参加者を募る。2 つ目は、学生の要望が多かった実践形式の内容を増やす。そのために、3 つ目の課題として今年度の受講生から TA のようなアシスタントを配置し、グループワークが円滑に進むような環境を作る。これらの課題解決に取り組みながら、貴重な専門知識を要する先生方からの学びを学生の実践に役立てるサポートをしていきたい。

(文責:中尾 綾)

4) 各部の活動報告

今年度の活動報告として、試合結果・地域貢献活動を中心に各部が報告書を作成した。

	部活動名	ページ
1	サッカー部	16
2	ラグビー部	17
3	硬式野球部	18
4	男子ソフトボール部	19
5	女子ソフトボール部	20
6	女子バスケットボール部	21
7	男子バスケットボール部	22
8	アメリカンフットボール部	23
9	陸上競技部	24
10	水泳部	25
11	アーチェリー部	26
12	準硬式野球部	27
13	男子ラクロス部	28
14	女子ラクロス部	29
15	弓道部	30
16	ゴルフ部	31
17	卓球部	32
18	硬式テニス部	33
19	合奏研究会吹奏楽団	34
20	バドミントン部	35

※記載は順不同

1部サッカー部

活動報告



●2019 年度結果

東海学生サッカーリーグ 2部 5位
内閣総理大臣杯東海予選 1回戦敗退

昨シーズンはリーグ戦でも総理大臣杯でも良い成績が残せなかった事が悔やまれました。勝ち試合をものにできなかったり、終了間際の失点で勝ち点を取り損ねたり、甘さが出てしまいました。

●2019 年度地域貢献活動

少年サッカー教室の開催
少年サッカー大会審判派遣
校内周辺清掃
美浜タウンマラソン参加



●2020 年度目標

東海一部リーグ昇格 総理大臣杯全国大会出場



今年は東海 1 部リーグ昇格、総理大臣杯全国大会出場を目標にサッカー部は始動します。新たなメンバーも加わり、激しい競争が始まりますが、サッカーを楽しみながら自分自身を見つめ直し、チーム全体でレベルアップの向上に努めます！チーム一丸となり頑張るので応援よろしくお願いします！

2019 年度ラグビー部活動報告書

2019 年度東海学生ラグビーリーグ戦 結果

〈2 部リーグ 1 位〉

2019	9 月	日本福祉大学 VS 愛知淑徳大学	○97-7●
2019	9 月	日本福祉大学 VS 三重大学	不戦勝
2019	9 月	日本福祉大学 VS 名古屋市立大学	○108-0●
2019	10 月	日本福祉大学 VS 名古屋工業大学	○66-7●
2019	10 月	日本福祉大学 VS 愛知教育大学	○52-7●
2019	10 月	日本福祉大学 VS 金沢学院大学	○59-14●
2019	11 月	日本福祉大学 VS 名古屋大学	○33-17●
2019	11 月	入れ替え戦 日本福祉大学 VS 名古屋経済大学	●24-47○

2019 年度掲げた目標の達成度

2019 年度の目標 「1 部リーグ昇格」

入れ替え戦で勝利することができなかったため、残念ながら目標を達成することができませんでした。

2019 年度地域貢献活動

- ・クリーンキャンパスキャンペーンの参加（前期後期 2 回ずつ）
- ・本学ラグビー部情報交換会（年に 1 回リーグ戦が終わった後に、食事をしながら保護者様との交流会）
- ・武豊ラグビー スクール体験教室ボランティア

2020 年度の目標

リーグ目標 「1 部リーグ昇格」

チームスローガン 「挑戦」



◎合宿や練習試合等で色々な他大学チームと実践を積み重ね、ここの技術を高めて、チームワークを大切に全員で 1 部リーグ昇格を目指し、何事も「挑戦」していけるチームを目指します。



2019 年度活動報告書(硬式野球部)



【2019 年度公式戦結果】

★愛知大学野球 春季リーグ戦 2部Bリーグ

	1 戦目	2 戦目	
✓愛知学泉大学	6 - 8 ●	16 - 1 ○	
✓名古屋商科大学	6 - 2 ○	7 - 0 ○	
✓同朋大学	0 - 4 ●	9 - 4 ○	
✓愛知大学	16 - 2 ○	4 - 3 ○	
✓名古屋学院大学	8 - 1 ○	6 - 1 ○	〈8勝2敗 2部Bリーグ優勝〉

★愛知大学野球 春季リーグ戦 2部優勝決定戦

VS 愛知産業大学

1 戦目 8 - 3 ○

2 戦目 2 - 4 ●

3 戦目 2 - 6 ●

★愛知大学野球 秋季リーグ戦 2部Bリーグ

	1 戦目	2 戦目	
✓名古屋経済大学	3 - 0 ○	7 - 0 ○	
✓名古屋学院大学	4 - 5 ●	0 - 5 ●	
✓星城大学	9 - 0 ○	1 - 4 ●	
✓愛知学泉大学	12 - 3 ○	13 - 2 ○	
✓愛知東邦大学	1 - 5 ●	3 - 4 ●	〈5勝5敗 2部Bリーグ3位〉

【2019 年度掲げた目標】

1部を経験している最上級生がいかにうまく下級生を引っ張っていくのが課題となり、日々の練習に取り組んできました。春季・秋季リーグ戦では2部残留という悔しい結果になりました。

【地域貢献活動】

冬季の練習では、内海の砂浜で追い込み練習を行った後、選手全員でゴミ拾いを行いました。1月に行われた美浜町タウンマラソンでは選手全員が参加し、マネージャーはボランティアで運営のサポートを行いました。そのほかにも少年野球チームに対して、野球教室を行いました。地域の方と触れ合う時間が少ないため、積極的に活動に取り組んでいきたいと思っています。

【2020 年度の目標】

1 部昇格



日本福祉大学男子ソフトボール部



男子ソフトボール部は、2019年の目標として「**インカレ優勝**」という競技面での目標と、「**挨拶の徹底**」「**正しい身だしなみを心がける**」という日常生活面での目標を掲げてきました。

2019年度 結果・成果

- 令和元年度春季東海地区大学男子Ⅰ部ソフトボールリーグ戦 第4位
- 第51回西日本大学男子ソフトボール選手権大会 ベスト16
- 文部科学大臣杯第54回全日本大学男子ソフトボール選手権大会** **ベスト8**
- 第16回 北信越大学男子女子オープンソフトボール大会 優勝
- 第20回愛知県大学選手権 準優勝

競技面：「**インカレベスト8**」

ベスト8で対戦した日本体育大学との差

インカレでは、優勝を果たした日本体育大学とベスト8で対戦しました。その試合で感じたのは、「打撃力の差」です。個々の打撃力向上のために、筋力トレーニングを練習メニューに組み込み、「振る力」から鍛える必要があると感じました。

日常生活面：「**達成**」

2020年度目標

競技面：「**インカレ優勝**」

『各試合会場の清掃活動（4月～11月）』

会場で試合をさせていただき感謝の気持ちと応援しに来ていただく方たちが次も応援しにきたいと思っていただけるよう、試合終了後、清掃活動を行いました。

2019年度 女子ソフトボール部 活動報告書

▼2019年度結果

中京テレビ杯 春季第73回東海地区大学リーグ戦 I部6位
入れ替え戦 vs 至学館大学 5-0で勝利 (I部残留)
中京テレビ杯 秋季第74回東海地区大学リーグ戦 I部5位
入れ替え戦 vs 至学館大学 7-4で勝利 (I部残留)
西日本大学ソフトボール選手権大会 ベスト16

▼2019年度掲げた目標の達成度

2018年度の目標は春季リーグ4位以内インカレ出場でしたが、
残念ながら秋季リーグ戦6位という結果に終わってしまい、目標を達成することが出来ませんでした。

▼地域貢献活動

- ・クリーンキャンパスキャンペーンへの参加
(美浜キャンパス内の清掃活動)
- ・内海の海岸沿いのゴミ拾い
- ・試合会場周辺のゴミ拾い
- ・小学生ソフトボール大会に審判員として参加
- ・長野県災害地ボランティア



▼2020年度の目標

2020年度は去年の悔しさを胸に「GIANT KILLING」というスローガンを掲げました。
「GIANT KILLING」という言葉は日本語で「下克上」という意味になります。去年の春季リーグ戦で惨敗し、インカレ出場を逃し悔しい思いをしたことから、2020年度は挑戦者として

- ・春季リーグ戦優勝
 - ・インカレ優勝
- を目標に、今後の練習も頑張っていきます。



2019年度 女子バスケットボール部 活動報告書

<2019年度結果>

- ・2019年度第57回東海学生バスケットボール大会 第7位
- ・2019年度第90回東海学生バスケットボールリーグ戦2部リーグ 2位
2位のため入れ替え戦に出場 VS 中部大学 敗退のため2部残留

第90回東海学生バスケットボールリーグ戦 個人賞

敢闘賞	4年	磯貝	恭子
優秀選手賞	1年	遠藤	真帆



<2019年度に掲げた目標の達成度>

第57回東海学生バスケットボール大会の掲げた目標はベスト8+1勝、第90回東海学生バスケットボールリーグ戦では2部上位という目標を掲げました。
結果は今年度すべての目標を達成することができました。

<地域貢献活動>

- ・クリーンキャンパスキャンペーンへの参加
- ・美浜タウンマラソンへの参加
- ・車いすバスケットボールの体験・ボランティア



<2020年度の目標>

東海学生バスケットボールリーグ戦で2部優勝を目標に「凡事徹底」というスローガンを掲げています。当たり前のことを当たり前にできるように選手・チームを目指し目標に向かって日々練習に取り組めます。



2019 年度 活動報告書（男子バスケットボール部）

🏀2019 年度の大会結果🏀

《第 57 回東海学生バスケットボール大会》 2 回戦進出

《男子第 69 回女子第 68 回西日本学生バスケットボール選手権大会》 1 回戦敗退

《第 90 回東海学生バスケットボールリーグ戦》

・3 部 予選リーグ

vs 岐阜聖徳大学 愛知教育大学 名古屋学院大学 静岡大学静岡キャンパス 愛知教育大学
B ブロック 1 位通過により「決勝リーグ進出」

・3 部 決勝リーグ

vs 浜松学院大学 三重大学 滋賀大学彦根キャンパス
決勝リーグ 2 位により「入れ替え戦進出」

・入れ替え戦

vs 至学館大学 1 戦目 65-82○ 2 戦目 77-67●
得失点差により「2 部リーグ昇格」

🏀2019 年度掲げた目標の達成度🏀

2019 年度は「2 部リーグ昇格」を目標に掲げ、努力の甲斐もありこの目標を達成することができた。この結果に満足せず、来年度もさらに上を目指して練習に励んでいきたい。



🏀2020 年度の目標🏀

「1 部リーグ昇格」

応援よろしくお願いします！！

🏀地域貢献活動🏀

- ・クリーンキャンパスキャンペーン
- ・車いすバスケットボール交流大会

このイベントを通して、車いすバスケットボールの楽しさを知り、パラスポーツについての理解を深めることができました。

2019 年度活動報告 アメリカンフットボール部 WINGS

2019 年度結果

春フェスタ 日本福祉大学 VS 名古屋工業大学 23-23 同点

秋季リーグ <2 部 A リーグ 5 位>
※同率 3 位、抽選により 5 位

日本福祉大学 VS 名古屋商科大学 21-14○

日本福祉大学 VS 南山大学 0-29●

日本福祉大学 VS 愛知大学 0-39●

日本福祉大学 VS 愛知学院大学 0-38●

入れ替え戦 <2 部 B 降格>

日本福祉大学 VS 三重大学 25-30●



2019 年度掲げた目標の達成度

2019 年度目標は去年に引き続き 1 部リーグ昇格でしたが、力を出し切れず 2 部 A リーグ同率 3 位、抽選により 5 位という結果でした。また入れ替え戦では、三重大学にも敗れ 2 部 B 降格という結果に終わりました。



地域貢献活動

* クリーンキャンパスキャンペーン

(美浜キャンパス内の清掃)

* クリーンアップアクション

(東海学生アメリカンフットボール連盟主催の清掃活動)

* 知多半島内におけるスポーツ普及貢献活動

(東海学生アメリカンフットボール連盟ポスター配布)

* 地域清掃活動

(知多奥田駅から野間大坊までの区間の清掃活動)

2020 年度の目標

2 部 B リーグ全勝を果たし入れ替え戦で

勝利を掴み次の世代に繋げていく。



2019 年度活動報告書(陸上競技部)

男女 2019 年度結果報告

井内月野さん 西日本インカレ 400m4 位
愛知県選手権 400m6 位
東海学生秋季選手権 400m 3 位
高橋峻也さん ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権
日本パラ選手権 F46 槍投げ 2 位
榊原章人さん 東海学生秋季選手権 槍投げ 3 位
女子 4×100R(葛西さん大坂さん井内さん茶井さん) 東海インカレ 8 位

男女 2019 年度掲げた目標

全員自己ベスト更新。10 人以上の西日本インカレ出場。

男女 地域貢献活動

美浜スポーツランニング1年間活動。
高校陸上競技大会の審判として参加。
美浜タウンマラソンに選手・ボランティアとして参加。
男子 10km横山さん 5 位 5km加藤さん 4 位
女子 5km井内さん 1 位茶井さん5位
グリーンキャンパスキャンペーンに参加。



男女 2020 年度の目標

1 人でも多くの選手が西日本インカレ・全日本インカレに出場する。
日頃の練習を怠らずに自己ベスト・シーズンベストを更新する。



2020 年度は 2019 年度よりも皆から応援される選手を目指して、日々の練習に励んでいきます！
応援よろしくお願いいたします！！

2019 年度活動報告書(水泳部)

2019 年度成績

競泳

・中部学生選手権水泳競技大会 決勝 4 種目出場

200m バタフライ 9 位(後藤雅典) 200m 背泳ぎ 10 位/100m 背泳ぎ 10 位(亀井渚彩)

女子 100×4 フリーリレー 7 位(浅野莉舞/佐藤華純/亀井渚彩/吉富桜綺)

パラ競泳

・ジャパンパラ水泳競技大会

男子 400m 自由形 1 位/男子 200m 男子個人メドレー 1 位/男子 100m 自由形 2 位/男子 50m 自由形 2 位(安田帆孝)

男子 400m 自由形 1 位/男子 50m 自由形 5 位/男子 100m 自由形 3 位(後藤陸斗)

・日本パラ水泳選手権

男子 100m 自由形 1 位/男子 400m 自由形 1 位(安田帆孝)

男子 50m 自由形 3 位(後藤陸斗)

・Singapore2019 World Para Swimming World Series 日本代表(安田帆孝)

トライアスロン

・2019 日本学生トライアスロン選手権 観音寺大会

総合順位 男子 78 位(渡辺輝)/130 位(蜂矢樹) 女子 15 位(田中美沙樹)

・第 9 回日本 U23 トライアスロン選手権

総合順位 男子 21 位(渡辺輝) 女子 5 位(田中美沙樹)

2019 年度を振り返って

水泳部全体を通してそれぞれが自己ベストを更新し、個人として努力を積み重ねることができた 1 年間となった。しかし、多くの選手があと一步のところで決勝を逃したり、怪我をしたりして常にいいパフォーマンスを保つことができず苦い思いを残した。

2020 年度へ向けて

水泳部では 2020 年度のスローガンを「今こそ大器晩成の瞬

(とき)」とし、レースという一瞬のためにできることを最大限に取り組んで

いく。それは個人のためではなく、チームとしてもう一つ上のステージを目指していくにはどうしなくてはならないかを考え、全員が持つ大器を全員で完成させていきたい。

地域貢献活動

アイアンマン 70.3 セントレア知多半島ジャパン ボランティア活動

2019 年度 アーチェリー部活動報告

○2019 年度結果

全日学生アーチェリー王座決定戦 男子団体・女子団体出場

全日本学生アーチェリー個人選手権大会出場 西野凌、佐藤百音

○目標達成度

2019 年度の目標に掲げた「王座決定戦男女とも出場」を達成することが出来ました。

○地域貢献活動

OB・OG 会を開催し、子どもたちのためのアーチェリー体験会や交流会を行いました。また、地元の大会などに参加し、地元の大会を手伝い盛りあげています。



○2020 年度の目標

2019 年度は男女とも王座に出場することができたので、2020 年度も継続して全日本王座決定戦やその他の全国大会に出場し活躍をしたいと思います。



2019 年度活動報告書（準硬式野球部）

19 年度結果

東海地区大学準硬式野球選手権大会 / 1 回戦名古屋大学医学部に 12 - 1 で勝利

2 回戦中京大学に 3 - 14 で敗北

春季リーグ戦（3 部リーグ） / 4 勝 0 敗でリーグ優勝

入れ替え戦 / 1 回戦名古屋大学に 6 - 4 で勝利

2 回戦名古屋大学に 6 - 0 で勝利（2 部昇格）

新人交流大会（3 チーム出場） / A チーム 中部大学に 6 - 8 で敗北

B チーム 1 回戦岐阜協立大学に 5 - 4 で勝利

2 回戦中京大学 B に 1 - 3 で敗北

C チーム 1 回戦名城大学 A に 7 - 3 で勝利

2 回戦愛知学院大学に 7 - 9 で敗北

秋季リーグ戦（2 部リーグ） / 7 勝 2 敗 1 分（2 部残留）



19 年度掲げた目標の達成度

2019 年度の目標として 2 部昇格を掲げ、春季リーグ戦にて達成することができましたが、残念ながら全国大会出場という目標は達成できませんでした。

地域貢献活動

今年度は学校の活動に参加することはできましたが、地域の方々との交流を深めるような活動は実施できなかったため、来年度はチームで話し合い計画的に相談して積極的に活動できるように頑張ります。

2020 年度の目標

・東海選手権を勝ち抜き、全国大会出場 ・1 部リーグへ昇格



2019 年度 男子ラクロス部活動報告書

🏑 2019 年度結果 🏑

第 28 回男子東海学生ラクロスリーグ戦（2 部）

4 勝 2 敗 2 部リーグ 2 位入れ替え戦出場

入れ替え戦 vs 愛知大学 5-9 で敗退 2 部残留

🏑 2019 年度掲げた目標の達成度 🏑

2018 年度 2 部リーグ 3 位入れ替え戦出場敗退という結果から 1 部リーグ昇格という目標を立てた。今年は 2 部リーグ 2 位になり去年同様入れ替え戦出場したが敗退し 2 部残留という結果で終わり目標は達成できなかった。

🏑 地域貢献活動 🏑

年に 2・3 回日本福祉大学美浜キャンパスのクリーンキャンパスキャンペーンに参加し、自分たちが使用している場所(キャンパス内や駅周辺)の清掃を行った。

🏑 2020 年度の目標 🏑

「2 部リーグ全勝 1 部リーグ昇格」

1 部に昇格したいという部員全体の想いから入れ替え戦出場は必須となり、2 部リーグ全勝は欠かせない目標となったためこの目標をたてた。これからも入れ替え戦出場果たすため日々精進していきます。



2019 年度 女子ラクロス部 活動報告書

①2019 年度結果

東海学生ラクロスリーグ戦 2 部 5 位

②2019 年度掲げた目標の達成度

「2 部制覇」の目標を掲げ日々練習に励んでいたが、結果は 2 部 5 位と目標を達成する事はできなかった。

③地域貢献活動

地域で開催されているお祭りへ行き、お祭りへ直接行けない高齢者施設の方が欲しいものを代わりに買って届けに行くボランティアをした。

また、ラクロス部として名古屋へ献血をしに行った。

④2020 年度の目標

☆リーグ目標：2 部突破

今年度は「2 部突破」という目標を立てた。

昨年度の結果を受け、部員全員で話し合いまだこの部活が成し遂げたことのない 1 部昇格をしたいという思いからこの目標を設定した。

☆チーム目標；ONE

- ・みんながひとつになれるチーム
- ・初心を忘れない
- ・部員一人ひとりが選手意識をもつチーム



2019 年度 弓道部 活動報告書

① 2019 年度結果

・第 6 2 回東海学生弓道選手権大会

個人女子三位 岡本花

・全日本学生弓道個人予選会 個人予選突破

清家将太 大脇涼雅

・第 6 3 回東海学生弓道リーグ

男子 4 部リーグ 名古屋商科大学ー日本福祉大学 8 3 - 6 3 ●

静岡理工科大学ー日本福祉大学 5 4 - 6 4 ○

大同大学ー日本福祉大学 5 8 - 7 2 ○

よって 4 部リーグ 2 位 残留

・女子 4 部リーグ 愛知県立大学ー日本福祉大学 2 7 - 1 5 ●

愛知工業大学ー日本福祉大学 2 7 - 2 1 ●

金城学院大学ー日本福祉大学 2 2 - 1 4 ●

名古屋学芸大学ー日本福祉大学 2 2 - 1 9 ●

入れ替え戦 岐阜薬科大学ー日本福祉大学 2 1 - 2 0 ●

よって 5 部リーグ降格

② 2019 年度に掲げた目標の達成度

男子及び女子 3 部昇格という目標は達成できず男子は 4 部残留、女子は 5 部降格という苦い結果に終わってしまいました。しかし、個人の成績では、東海大会上位入賞・全日本インカレ個人本戦出場を果たすなど、大きな大会での結果を昨年度以上に残すことができた。

③ 地域貢献活動

第 2 1 回ゆめたろうスマイルマラソンスタッフボランティア

④ 2 0 2 0 年度の目標

本年度では、団体での結果にこだわりを持ち、メンタルトレーニングを充実させ、実戦感覚を養いながら東海大会団体決勝進出・男女共にリーグ昇格を目指す。



19 年度ゴルフ部活動報告書

活動実績

3 年 芦田諒太

中部アマチュアゴルフフェーズ選手権地区決勝 156／5 位

全日本アマチュアゴルフフェーズ選手権出場

中部学生ゴルフ連盟 10 月定例会 61／優勝

目標達成

部員数を大幅に増やすことはできたが大会で成績を残せる選手が一部に限られているので改善したい。

地域貢献活動

第 24 回日本障がい者オープンゴルフ選手権運営ボランティア（10 月）
スナッグゴルフ運営サポート・指導等

20 年度目標

入部した部員の技術向上及び、2 名以上中部選手権出場

- ・ゴルフ部活動体制づくり（大会に出場できる選手を増やす）
- ・美浜スポーツクラブ（スナッグゴルフ）の運営支援
- ・日本障がい者ゴルフ協会（中部支部）活動の運営支援

2019 年活動報告書(卓球部)

1. 2019 年度結果

- 春季東海学生リーグ戦 2 部 2 位
- 秋季東海学生リーグ戦 2 部優勝

2. 2019 年度掲げた目標の達成度

秋季リーグ戦では 2 部では優勝することができた。しかし、入れ替え戦で愛知大学に敗戦し、2 部残留という結果で終わった。試合を通じて 1 部大学との実力の差を痛感した。

3. 地域貢献活動

- クリーンキャンパスキャンペーンへの参加
- 美浜町卓球教室のボランティア活動

4. 2020 年度の目標

- 1 部昇格
- 部員全員が同じ目標をもって日々の練習を励む

2019 年度 1 部硬式テニス部（男女）活動報告書

2019 年度の大会結果

団体戦:令和元年度 全日本大学対抗テニス王座決定試合東海地区予選 東海大学 対抗テニスリーグ戦 2 部リーグ男女共 2 位通過 1 部入れ替え戦へ

個人戦:(男子)平成 31 年度 第 69 回東海学生春季テニストーナメント大会シングルスベスト 64 ダブルスベスト 32 武石柁平

令和元年度 第 79 回東海学生テニス選手権大会シングルスベスト 64 ダブルスベスト 32 武石柁平

(女子)平成 31 年度 第 69 回東海学生春季テニストーナメント大会シングルスベスト 32 ダブルス 32 中川杏, シングルスベスト 64 ダブルス 32 奥岡史帆

令和元年度 第 79 回東海学生テニス選手権大会シングルスベスト 32 ダブルス 32 中川杏, シングルスベスト 64 ダブルスベスト 32 奥岡史帆

令和元年度 第 23 回 東海学生チャレンジテニストーナメント大会ダブルス優勝長岡純未, 棧敷和

2018 に掲げていた目標に対しての達成度

男女共に 1 部昇格を目標にしてきたが達成できなかった。しかし男女共に 1 部入れ替え戦出場した。

2020 年度の目標

団体戦:男女共に東海 2 部 1 位通過し 1 部昇格。

個人戦:(男子)本戦出場の選手をもっと増やす。

(女子)本戦でもっと勝ち進む。

部員全員が去年の成績超える。

チーム目標

~必笑~

試合に勝つことと何より笑うことを大切！

目標を達成するためにすること

親密なコミュニケーションをとる。チームの雰囲気作りに心がけ、仲を深めるだけではなく互いに技術を高め合う。

2019 年度活動報告書(合奏研究会吹奏楽団)

- 1) 全日本吹奏楽コンクール 愛知県大会 銀賞
- 2) コンクールでは金賞を受賞することを目標にしていた。

しかし、結果は銀賞だった。なぜなら、練習日に団員が欠席し、合奏練習ができない日が多々あった。これは練習日程表を団員に公開するのが遅く、練習日程表が公開される前にアルバイト等の予定を入れてしまったことが原因で練習に来られなかったのだと思う。

- 3) 5月 ビラ・オレンジ

11月 吹奏楽フェスティバル

12月 富貴児童館 クリスマスコンサート

2月 定期演奏会

半田児童館

- 4) 2020年度の目標は、聴いてくださる方へ今までよりも良い音楽をお届けすること。

②の反省を活かし、2020年度は早めに練習日程表を作成、公開し、団員が練習に参加しやすい環境を作る。

2019 年度活動報告書（バドミントン部）

①第 129 回東海大学バドミントン選手権大会

男子 2 位

女子 3 位



第 130 回東海大学・第 41 回東海新人バドミントン選手権大会

男子個人ダブルス

2 位 荒木・東

3 位 田中・高嶋

②2019 年度掲げた目標（男子 1 部優勝、女子 1 部残留）

男子は決勝まで行ったが、惜しくも負けてしまい優勝は達成されなかったが、女子は入れ替え戦もなく残留することができました。

③パラバドミントンの選手と練習や試合を行った他、美浜町大会に参加して地域活性化に貢献することができました。



④2020 年度の目標

（インカレ出場）

昨年度は個人戦であと少しのところでインカレ出場を逃した選手が多く、部としてもう一度練習を見直し普段の練習でも勝ち癖をつけていけるように部内で徹底していきます。

5) UNIVAS リーダーズキャンプ

【概要】

1. 目的

- 1) 新年度を迎えるにあたり、キャプテンとして求められていることを理解することで、組織強化・競技レベルの向上へ繋げる。
- 2) 競技種目、大学問わず、横断型の交流を行うことで、様々な視点や価値観を共有するとともに、課題解決の幅を広げる。
- 3) 競技だけでなく社会人として求められるリーダー像を知り、キャプテンという希少な時間を有意義なものにしてもらう。

2. 対象者及び人数

1) 対象者

UNIVAS 加盟大学の 2020 年度運動部キャプテン（主将）

2) 人数

下記日程において各大学最大 5 名までとし、各日程 84 名を定員とする。

※申込先着順、同一学生の両日程の参加はできません。

3. 日程

【第 1 グループ】2 月 16 日（日）・17 日（月） 【第 2 グループ】2 月 27 日（木）・28 日（金）

※両日程 11 時半東京駅出発、19 時東京駅到着・解散予定

4. 会場 ※東京駅からバスで移動します。1 日目の昼食及び東京駅までの費用はご負担ください。

仲間と泊まる学校 ちょうなん西小（千葉県長生郡長南長町佐坪 1348-1）

5. 参加料

○通常申込：15,000 円/1 名（税別） 宿泊費及び食事代（夕食・朝食・昼食）含む

○モニター申込：無料 宿泊費及び食事代（夕食・朝食・昼食）含む

※ご協力事項

事後レポート（3 か月・6 か月後）の提出、インタビューやコメント等の使用

6. プログラム概要について

1) 1 日目

キャプテン（リーダー）とは、 そしてチーム（組織）とは
ビジョンを機能させ、目標を達成する メソッド「V.S.S マネジメント」
特別講演※

2 日目

社会が求めるリーダーとは
人生 100 年時代における自分のビジョンを描く
チームビジョンを描く

※特別講演

【第1グループ】



廣瀬俊朗 氏

◆株式会社 HIRAKU 代表取締役

◆ラグビーワールドカップ 2019 公式アンバサダー

5歳からラグビーを始め高校、大学、社会人、日本代表のキャプテンを経験。
2016年に現役引退後、現在は起業家として多方面で活躍をしている。

【第2グループ】



高光りょうすけ 氏

◆熊本中央高校陸上部メンタルトレーナー

◆熊本ゴールデンラークスモチベーションアドバイザー

感動を追求して約33年間、感動することは、人間にとって心のパワーということを検証し、多くの人に感動の力の偉大さを伝える活動を続けている。

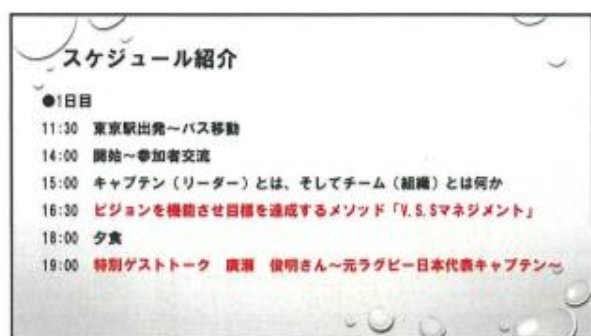
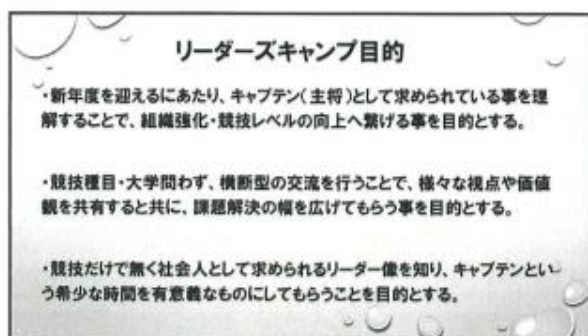
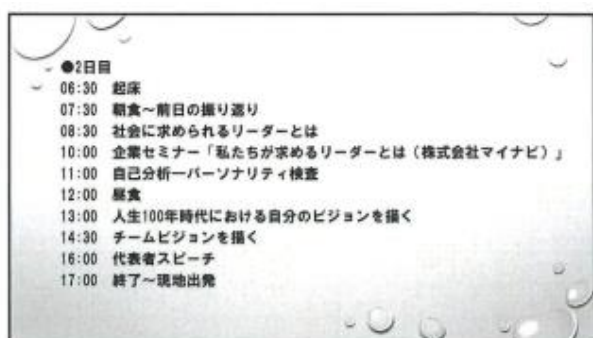
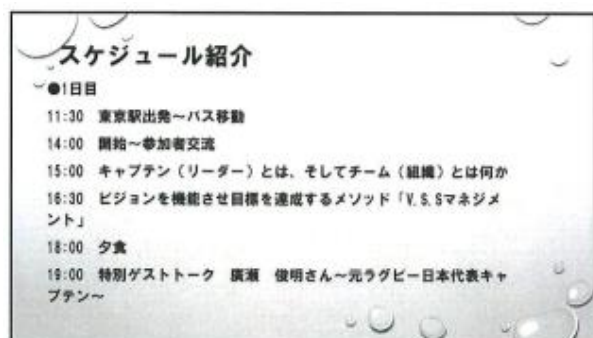
【本学からの参加者および報告】

① 坂本 優奈(女子バスケットボール部)

日時	2020年2月16日(日)
議事等	1日目 11:30 東京駅出発～バス移動 14:00 開始～参加者交流 15:00 キャプテン(リーダー)とは、そしてチーム(組織)とは何か 16:30 ビジョンを機能させ目標を達成するメソッド「V.S.S マネジメント」 18:00 夕食 19:00 特別ゲストトーク 2日目 06:30 起床 07:30 朝食～前日の振り返り 08:30 社会に求められるリーダーとは 10:00 企業セミナー「私たちが求めるリーダーとは(株式会社マイナビ)」 11:00 自己分析ーパーソナリティ検査 12:00 昼食 13:00 人生100年時代における自分のビジョンを描く 14:30 チームビジョンを描く 16:00 代表者スピーチ 17:00 終了～現地出発

意見等	今回のリーダーズキャンプを通して、学んだことは自分らしいキャプテンで自分の描くビジョンに向かってなにをするべきなのか明確にすることです。VSS マネジメントでは今やるべきことが明確になりチームに持ち帰ってすぐ出来ることが沢山あることに気づかされました。部活動の事だけでなく自分のこれからの人生についてのビジョンも考えることができたので、現在の就職活動にも役立てることができとても良い経験になりました。
まとめ	リーダーズキャンプでは、全国から他競技、他種目のキャプテンが集まり自分だけだと思っていた悩みやチームの現状を相談することが出来たことがすごくメンタル的に救われた部分がありました。また廣瀬さんの特別講演を聞くことができたのでキャプテンとしての視線やメンバーに対しての言葉掛けなどに変化が必要なことも知ることができました。それぞれのチームや種目によって異なる課題があると思いますが、また定期的に開催してもらいたいです。今回からの変化があった事や結果が出た事、逆にまだまだ悩みがあると思うので共感できる場があると嬉しいと思いました。

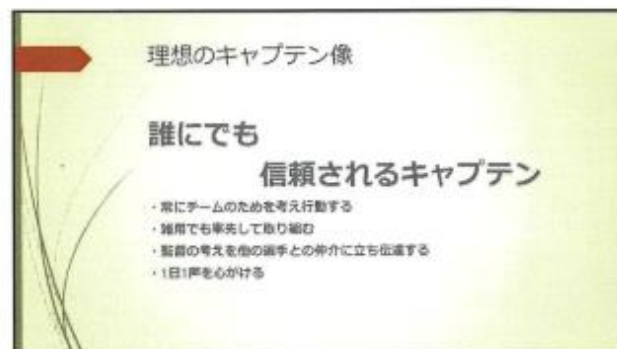
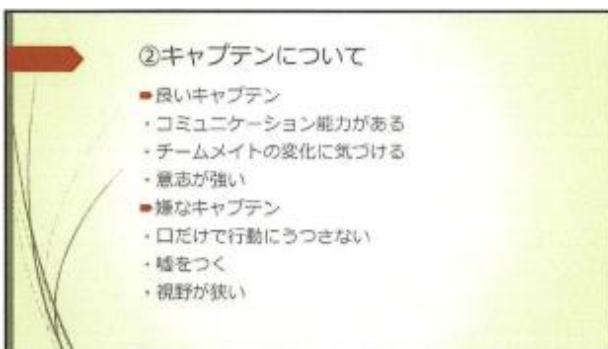
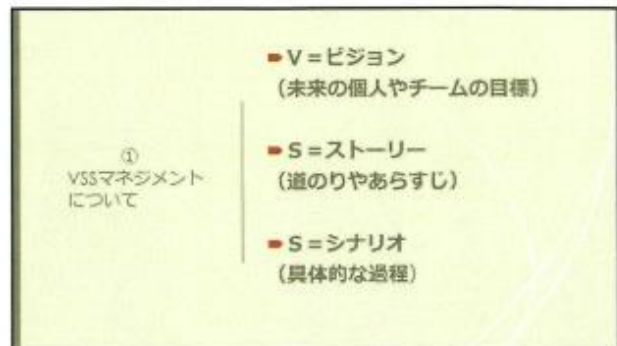
<本学報告会にて発表の資料>



② 森川 凱貴(男子ソフトボール部)

日時	2020 年 2 月 17 日(月)
議事等	良いリーダーと悪いリーダーの違いは何かについての議論。 リーダーがどのようにチームを引っ張っていくべきなのか。 VSS マネジメントでの目標設定の大切さ。 ラグビー元日本代表主将の廣瀬さんの講演。 10 年後の自分の生き方について。
意見等	ラグビー元日本代表主将の廣瀬さんの講演から、仲間の大切さについて大きく学んだ。 本当のワンチームというのは勝ってチーム全員が喜びを分かち合えることである。試合に出ている人が喜ぶのは当たり前だが、試合に出れなかった人たちが喜べるようにするのはキャプテンの仕事である。どれだけ試合に出れない人たちの居場所をチームの中に作ってあげられるのか。大切な役割をチームの一人一人に与えること。そうすることで勝つことで喜びを分かち合えるワンチームに繋がるのであるということ学んだ。他にはキャプテンはチームの模範であるべきだ。ということ強く学んだ。口だけで言うだけ言うが、自分はしっかりやらないというキャプテンは最悪である。誰かに物事を注意する分、自分はそのことを何倍もしっかりとやっていないければ説得力がない。ということになる。キャプテンは背中ですっかり語ることが大事ということ学んだ。
まとめ	リーダーズキャンプ全体を通して、キャプテンの大切さを改めて知ることができた。キャプテンがダメになれば、チームもダメになっていく。キャプテンがしっかりとすればチームも成長して行くと思う。それだけキャプテンは大事な存在である。そのようなことを踏まえた中で、自分なりの理想のキャプテン像というのはチーム全員から信頼されるキャプテンになる。ということである。やはり、信頼がなければ自分の言うことに説得力はないと思う。信頼を得るためには信用を積み重ねる必要がある。信用というのは普段の生活やプレー中での態度や取り組む姿勢である。誰よりも部活に対する思いが強く、やる時は誰よりもしっかりとやるということが、信用の積み重ねとなり、信頼へと繋がっていくのだと私は、リーダーズキャンプで学んだ。

<本学報告会にて発表の資料>



4. 美浜キャンパススポーツ大会(バレーボール大会)

目 的

一般学生に対しスポーツをする場・機会を提供し、学部や学年、スポーツ経験の有無を超えた交流を図る。

日 時

2019 年 11 月 28 日(木)13:30～17:00

場 所

SALTO1 階 スポーツ演習室

競 技

:バレーボール(6 人制)

・試合は 25 点 2 セットマッチにて実施(1-1 の場合は、得失点差にて勝敗を決定)

・ネットの高さは、2m30(男子グループ)、2m20(混合・女子グループ)とする。

大会プログラム

時 間	内 容	時 間	内 容
13:10～13:30	受付(1 階スポーツ演習室)→準備	16:30	試合終了・片づけ
13:30	開会式	16:45	閉会式→集合写真
13:45	試合開始	17:00	終了・解散

参加者

美浜キャンパス学生(スポーツ科学部:40 名、子ども発達学部:21 名、社会福祉学部:17 名)

グループ分け

A(男子):男子ソフトボール部、吃者、Alan・Leal

B(男女・女子): VC おじゃこ、オーロラソース、ビーチバレー、UNiON、チームきょんきょん、
ジャングルファイヤー

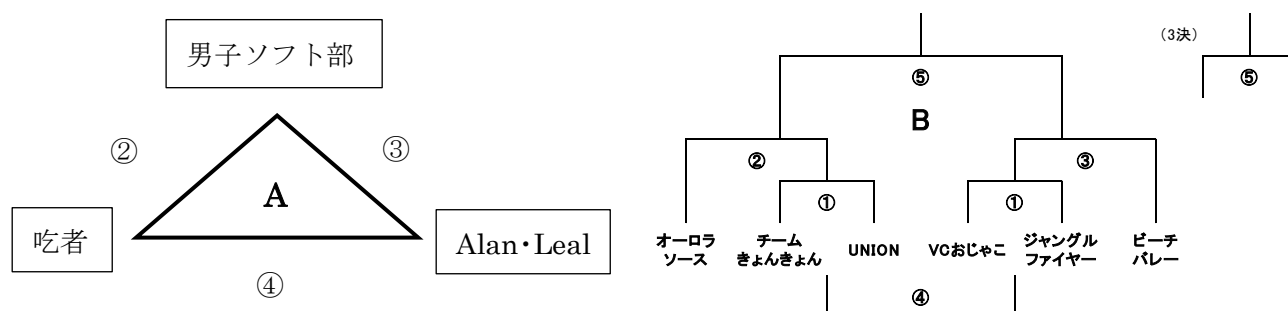
表 彰

A:優勝、B:優勝・準優勝・3 位

MVP:参加者の投票により決定

スポーツ科学センター賞:センター教員にて選出(1 チーム)

組み合わせ



結 果

<A グループ>

優勝:Alan・Leal

<B グループ>

優勝:UNiON

準優勝:ビーチバレー

3 位:オーロラソース

MVP 賞:

門司拓也(男子ソフト部)

渥美辰哉(UNiON)

堀部涼太(オーロラソース)

スポーツ科学センター賞:吃者

アンケート結果

① スポーツ大会はどうでしたか？

とても満足(31 名) 満足(22 名) 普通(2 名) 不満(0 名) とても不満(0 名)

② 学部や学年、スポーツ経験の有無を越えた交流を図ることができましたか？

③ すごくできた(23 名) できた(25 名) 普通(3 名) できなかった(4 名) 全くできなかった(0 名)

④ 本日の感想をお聞かせください。

- ・ちょっとネットが高い
- ・疲れました
- ・楽しかった (17 名)
- ・つよい (4 名)
- ・男子には片手打ち禁止にすると良い
- ・相手のレベルを合わせて欲しい (2 名)
- ・経験者はアタック禁止
- ・経験者が多くて絞った方がいい (3 名)
- ・半日通して楽しく過ごせました。「勝利」を目指すチームと楽しむチーム、混在していましたが、それぞれの良さがみれてよかった。
- ・またやりたい
- ・経験者と一緒は厳しい。なぜ配慮しなかった？理由が知りたい。
- ・初心者チームが欲しい
- ・空いている時間が長かったので、もう 1 コート作って空き時間に練習したい。
- ・新鮮ですごく面白かった
- ・ネット等の反則をどこまで取っていいのかわからなかった
- ・女子へのブロックを禁止などのルールを作るとよいと思います。2m20cm でブロックまでつかれてしまうと女子のスパイクが決まりにくい。

- ・普段できることのない男の人のボールが取れてよかったです。
- ・皆と楽しく、初めての **SALTO** を経験できてすごく最高です。
- ・役立たずだったのもっとバレーを上手になりたいと思った。
- ・久々に室内でバレーができてとても楽しかったです。
- ・かっこよかった
- ・レベルが丁度よく、楽しいバレーができた。
- ・レベルが高くやりがいがあった。参加チームがもっとあると楽しい。
- ・久しぶりにちゃんとできた。
- ・練習以上に合ってよかった
- ・最高でした。
- ・本気の試合ができてとても楽しかったです。

⑤ 今後、スポーツ科学センターの企画として実施して欲しいことがあればお書きください。

- ・バスケ（3名）
- ・もっとチーム数を増やした大会がやりたい
- ・サッカー
- ・バレー（8名）
- ・スポーツを通じた交流
- ・スポーツ大会（2名）
- ・鬼ごっこ（2名）
- ・ボッチャ（2名）
- ・スポッチャ
- ・ソフトボール
- ・バドミントン（2名）
- ・スポーツ企画を増やしてほしい（2名）
- ・フットサル
- ・交流を深めるものであれば全員もしくは過半数が納得できるような配慮をして欲しい。経験者が活躍していいようなものの楽しさが分からない。この大会の主旨は何かが分からない。又は達成されていない。

総 括

今年度は、バレーボールとボッチャの 2 種目を考えていたが、エントリーの関係でバレーボールのみの実施となった。9 チームのエントリーがあり、2 グループに分けて試合を行った。どのチームも一生懸命で、白熱した試合を展開していた。試合の運営については、バレーボール部やサークルの学生を中心に審判を引き受けてくれたため、非常に円滑に進めることができた。

また、アンケート結果からも参加した学生の 9 割以上がとても満足・満足と答えており、改めて一般学生へのスポーツ機会提供の必要性について認識した。次年度は学生の意見をもとに前期・後期各 1 回ずつのスポーツ大会開催を検討していきたい。

（文責：中尾 綾）

スポーツ大会の様子(写真)





5. みはまスポーツクラブ活動支援

美浜町と日本福祉大学の連携事業として設立された「みはまスポーツクラブ」は、設立準備期間を含めた8年間（2010年～2018年）の活動を踏まえ、『私たちの町のスポーツ環境をよりよくし、多様化する町民のニーズに応えていくためには、これまでの成果を踏まえて、さらに活動を広げていく必要がある』ことを確認し、2019年4月1日に法人格を取得「一般社団法人みはまスポーツクラブ」として新しいチャレンジを始めました。

スポーツ科学センターとしては引き続き、学生と地域住民との交流を目指した事業内容を充実させるとともに、学生を含めた地域住民が主体的にクラブに参画することを目指して、下記の活動を支援しました。

○ 学生と地域住民との交流を目指した取り組み

【ゼミや強化指定部が主催する教室】

- ・キッズウェルネス講座（山本秀人ゼミ）・・・幼児対象
- ・子どものゴルフ教室（日本福祉大学ゴルフ部）・・・小学生対象
- ・美浜ランニングスクール（日本福祉大学陸上競技部）・・・小学生対象

【スポーツ科学部の授業の一環として学生が開催する教室】

- ・にっぷくはつらつ教室・・・中高齢者対象

○ 今後の課題

現在、ゴルフ部と陸上競技部が小学生向けの教室を開催していますが、他の強化指定部からも教室開催の希望があり、強化指定事業と連携した取り組みが必要となっています。また、地域住民からは「強化指定部の試合を見てみたい」「応援したい」という要望も出てきています。大学と地域住民が双方向に支援・応援しあえる関係を確立することが今後の課題として挙げられます。

地域の人々と学生が、共にスポーツ・文化を通じて、幸せを感じられる町みはまを創るために、スポーツ科学センターとして支援できることを今後も探求していきたいと思います。

（文責：植田真帆）

6. 車いすバスケットボール交流会

【目 的】

1. 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会で実施される「車いすバスケットボール競技」の理解を深める。
2. 本学出身のアスリートの存在を知り、東京大会に出場する選手やこれから日本代表を目指す選手を同じバスケットボールプレイヤーとして応援し、交流の機会とする。
3. 一緒に車いすバスケットボール競技を楽しむことで、パラスポーツの楽しさや奥深さ、障がいの理解や同じアスリートとしてスポーツに取り組む姿勢を学び、学生自身の今後に活かす。

【日 時】 2019 年 12 月 14 日(土) 13時～15 時 30 分

【場 所】 日本福祉大学美浜キャンパス SALTO スポーツ演習室

【参加者】 日本福祉大学 女子・男子バスケットボール部員 約 32 名

【主 催】 日本福祉大学スポーツ科学センター

【卒業生講師】

宮島徹也氏(2011 年日本福祉大学情報社会科学部卒業

2008 北京・2012 ロンドン・2016 リオ大会で日本代表として出場・

現在も日本代表で活躍中、富山県車椅子バスケットボールクラブ所属)

熊谷悟氏 (現在、日本福祉大学健康科学部4年

車椅子バスケットボール U23 日本代表、クラブ東海所属)

大島美香氏(日本福祉大学社会福祉学部卒業・4 度のパラリンピックを日本代表として経験・

現在も日本代表で活躍中、Brilliant Cats とワールド BBC 所属)

【協力講師】

笥裕輝氏 (南山大学国際教養学部 3 年

車椅子バスケットボール U23 日本代表、名古屋車椅子バスケットボールクラブ所属)

ワールド BBC 所属選手(天皇杯第 47 回日本車いすバスケットボール選手権大会 3 位、

東海北陸を代表するクラブで日本代表選手を多数輩出、加藤氏・竹中氏)

【プログラム】

- 1、 挨拶
- 2、 講師紹介
- 3、 競技説明、解説(宮島選手)
- 4、 デモンストレーション
- 5、 練習(グループに分かれて車いすバスケットボール指導を受ける)
- 6、 試合(1試合:前半 5 分・後半 5 分・休憩 2 分、リーグ戦+順位決定戦:各チーム 3 試合)
- 7、 表彰式・閉会
学生より質問等
講師から一言
学生全体から東京大会に向けたエール+花束贈呈+記念品
集合写真

【選手写真】

宮島選手



熊谷選手



大島選手



【当日の様子】





【総括】

目的を全て達成するためには、体験会のように簡単に済ませては伝わらないこと、また選手との距離感(垣根)がなくなることが必要と考え交流大会とした。事前打ち合わせでは、遊びではなく試合をしっかりと行いたいこと、トラベリングやダブルドリブルをとることなどをこちらから依頼したところ、選手からやや驚かれた。しかし、選手が担当するチームで対戦するという事で、選手それぞれのやり方で熱心に練習や指導を行っていただき、チームのカラーが出て良かった。また、学生と選手がチームとしてお互いの距離がすぐに近くなっていることが感じられた。イベント後、選手から「これまで行ってきた講習会の中で一番チェアワークがうまく、車いすバスケットボールの競技になっていた」、「バスケットボールを知っていることがベースにあるので、専門用語も通じてやりやすかった」など、全体的に高評価の感想であった。

本イベントは、車いすバスケットボールをツールとして、2020 東京パラリンピックへの興味関心の向上のみならず、スポーツを通じた障害の理解促進、ジェンダーの違いや、障害の有無に関係なく対等に楽しめる競技として共生や平等、インクルーシブの視点が学べた機会となったと考えられる。さらには、OG や OB の選手、現在学んでいる選手双方の、日本福祉大学への愛着や帰属意識の向上が図れたと期待したい。

本大学には、障害者アスリートの卒業生や、在学学生、これから入学してくる学生を含めて、他大学よりも多くの障害学生は所属していると考えられる(パラ強化をしている日体大は除く)ことから、このような企画は他大学との差別化が図れる企画の一つであると考えられた。

(文責:安藤 佳代子)

7. NCAA コンベンション視察研修

研修目的

- ① 米国 NCAA の真の姿の理解
- ② 大学のスポーツ局・ホームゲームの体感
- ③ 思い描く未来の共有

※日本における大学スポーツはどうあるべきかということを話し合い、何らかの方向性のアウトプットを出すことを最終的なゴールとして設定する。

企画協力

筑波大学アスレチックデパートメント

期 間

2020 年 1 月 20 日（月）～2020 年 1 月 26 日（日）

場 所

アメリカ合衆国カリフォルニア州 アナハイムコンベンションセンター・他

参加者

中尾綾（スポーツ科学センター教員）

筑波大学 AD3 名 大学教員 3 名（中尾含む） 大学職員 5 名 学生 1 名

会社員 8 名（うち 1 名キャリア支援 NPO 法人所属、1 名研修協力のドーム（株）社員） 計 20 名

日 程

日次	月日曜	行程
1	1/20 (月)	14 名 12:00～16:00 バス利用 <羽田便> 16:25 頃 DL6 便（直行便） 11:00 （1カ所～2カ所） 羽田空港 …——… ロサンゼルス国際空港 …… 市内観光 …… ホテル 6 名 9:25 頃 17:00～ <関空便> 17:40 頃 JAL60 便（直行便） 12:30 （1カ所～2カ所） 関西国際空港 …——… ロサンゼルス国際空港 …… 市内観光 …… ホテル 10:50 頃 18:00～
2	1/21 (火)	9:00 13:00～19:00 バス利用 ホテル … AM：ゲストスピーカーより個別セッション、PM：UCアーバイン校訪問 … ホテル （会場：ヒルトンアナハイム）※お客様手配 19:00
3	1/22 (水)	9:00 ホテル …… 終日：ゲストスピーカーより個別セッション …… ホテル （会場：ヒルトンアナハイム）※お客様手配 19:00

4	1/23 (木)	9:00 ホテル …… 終日：コンベンション参加・英語ワークショップ …… ホテル (会場:マリオットホテルアナハイム) ※お客様手配 19:00
5	1/24 (金)	13:00 13:00~23:00 バス利用 ホテル … PM：クレアモント・マッド・スクリプス大学訪問、ホームゲーム観戦 … ホテル (AM:クラリオンホテルにて振り返りセッション) (UCLA 女子バスケットボール HG 観戦予定) 23:00
6	1/25 (土)	＜羽田便＞ 7:40 (連絡バス) 10:30 頃 ホテル …… ロサンゼルス国際空港 …… 7:30 DL7 便 (直行便) ＜関空便＞ 12:45 頃 ロサンゼルス国際空港 …… 9:30 JAL69 便 (直行便)
7	1/26 (日)	＜羽田便＞ DL7 便 (直行便) ————… 羽田空港 15:20 頃 ＜関空便＞ JAL69 便 (直行便) …………… 関西国際空港 18:15 頃

内 容

【研修 1 日目：1 月 21 日（火）】

AM：ゲストスピーカーによる個別セッション

- ① テンプル大学准教授 Dr. Jeremy Jordan 「NCAA の概要」
 - NCAA の統括は、ボトムアップによって所属大学が自分達で決定をしている。
 - NCAA には 3 つのディビジョンが存在し、1100 校、50 万人の学生アスリートがいる。
 - 3 つディビジョンにおける大きな違いは、スポーツ活動に対してどの程度投資しているのかという部分である。
 - ディビジョン I (D1) は主に公立大学、ディビジョン II (D2) は公立と私立の両方、ディビジョン III (D3) は主に私立大学がメンバーになっている。
 - 全ての NCAA 加盟大学においてスポーツ活動にかかる収支を黒字化できている大学は 20-30 校程度しかない。(スポーツは投資という考え方)
 - キャンパスの至る所にスポーツチームのロゴを飾っている。(スポーツ活動をブランド力の向上に活用しており、学生と大学を一つにまとめていく役割を持っている。)
 - D1 の大学については、大体 50-200 億円程度の予算規模。(大学によって規模の差あり)
 - 規則は、大学とカンファレンスの 2 つが様々な規則を作ることができる。(NCAA はできない。)
- ② ロングビーチ州立大学 (D1, No football) エグゼクティブシニア副アスレチックディレクター Rob Clark
 - AD の運営費は各大学が自分たちで生み出す責任があるので、そのために地域と関わりを持ち、投資をしてくれる人たちを見つけるといことも課題である。

- AD の収入源は、小規模の大学では学生費（Student Fee）がその多くを占めている。
※Student Fee：全校の学生から徴収する学費に上乗せされている部分で、スポーツ活動や施設だけではなく大学全体の施設や設備の充足に使用される。
 - D1 は、NFS（No Football School）という大学にアメリカンフットボール部がない大学、FCS（Football Championship Subdivision）というアメリカンフットボールのある学校がある。その他に、FBS（Football Bowl Subdivision）というものがあり、ここに所属する大学はフットボール部を持ち、更に D1 の中でも最も競技力が高い大学群で予算規模も最も大きい。
 - アスリート 1 人にかかるお金は、高い順に寮費、教育費や学費、諸経費、教科書等となっており、年間約 230 万円になる。
 - アメリカの大学は、アスリートである前に学生であることが重要であると考えている。
 - コミュニティとの関わりについて 2 つの目的があり、1 つ目は学生アスリートがコミュニティとの関わり方を学ぶ経験を提供すること、2 つ目は AD を運営するための資金を得るということである。
 - その他の資金源には 2 つあり、1 つはチケットであり、もう 1 つがスポンサーシップである。
- ③ NCAA（D2）副会長 Terri Gronau、NCAA（D2） マネージングディレクター Maritza Jones
- D2 の基本的な考え方は、競技と学業のバランスを保つことにある。（加盟する多くの大学が学業、競技、そしてコミュニティとの社会的な関わり方のバランスを重要なものと考えている。）
 - D2 大学の特徴は地元に根付いていることであり、実家が大学から近郊の学生が多い。
 - NCAA の最終的な意思決定をしているのは、President Council（PC）である。D2 のメンバーから 16 人の学長を選出して PC を運営している。（図 1）
 - PC の役割としては、予算の承認、D2 全体の戦略を立てる、D2 全体の予算の決定等である。（様々なルールや規則を決められるのは D2 では PC のみである。）
 - Management Council（MC）という PC 直属の評議会では、日常的なより細かい事柄について話し合われている。MC は所属しているメンバーが多く、大学一つ一つのアドミニストレーターやアスレチックディレクター、教員、カンファレンスの代表者など様々な人が所属している。
 - さらに MC 直属の小さな委員会があり、かなり細分化されていて、その一つ一つが担った役割を専門に議論し、各委員会が MC や PC に議論の内容を報告している。（全体の関わりは流動的なものとなっている。）
 - 協会全体の仕組みは、最終的な意思決定機関として Board of Governors（BG）が存在し、3 つのディビジョンから選ばれた投票権をもった 21 人が所属している。（それ以外も独立して投票権のない 5 人のメンバーもあり、この 26 人で BG は運営されている。）
 - BG の役割は D2 の PC と似ており、全体の予算決定や戦略決定であり、NCAA の会長である Mark Emmert の雇用についても責任を持っている。
 - BG には 9 つの委員会と各ディビジョンの最高組織が議論の内容を直接報告する。
- ④ NCAA ガバナンス マネージングディレクター Jen Fraser（NCAA 本部に所属しており、D1 にて業務を行なっている。）

- D1においては、351大学が加盟し、全学生の25人に1人が学生アスリートとなっている。（その内58%の学生アスリートが資金面で何らかの支援や奨学金を受けている。）
 - D2などでは、毎年資金面での援助を受けるために更新をする必要がある一方で、D1は入学時に4年間の奨学金支給を保証できる仕組みになっている。
 - D1の金銭的援助の仕組みの一つが「Autonomy」と呼ばれており、自分たちで独自の規則を定める裁量を認められている。この「Autonomy」は5つのカンファレンスで11の領域について規則を変更する決定権を持っている。（他大学に比べて資金面において大きく差があるため。）
 - もう一つはD2などと同様に役員会や委員会による決定プロセスに従っており、NCAAによって競技種目ごとに複数年に亘った奨学金提供の上限人数が定められている。
 - 学生アスリートの肖像権を用いた収益について、学生アスリートに報酬が支払われるべきではないかといった議論が今現在行われている。
 - NCAAの資金の89%というのが3月の男子バスケットのチャンピオンシップ開催4週間で得られるものである。（放映権：ターナーとCBSとの契約）
 - 全体予算の95%は、大学1つ1つに還元していく（裁量権を持っているカンファレンス経由）
 - 各大学に配分された収益の8%は学生アスリートの教育の補助にしか使うことができない。
 - NCAAは、NCAAが直接開催するチャンピオンシップは、資金援助に限らずリクルーティングなどについても規則を定める。
- ⑤ NCAA 学業・メンバーシップ マネージングディレクター Geoff Silver (NCAAの学業とメンバーシップに関連した業務のディレクター)
- NCAA本部には、今550人ほどのフルタイム職員がいるが、約半数が規則や様々な取り決めに管理しており、半数がチャンピオンシップの方に割り当てられている。
 - NCAA本部は、グラウンド上で使われるルール以外のものを全てNCAAが取り決めており、それがきちんと行われているかを管理している。（高校や大学での学業成績、リクルート、練習時間、年間の試合数など）
 - NCAAの規則はあるものの、大学によっては他の大学と環境や状況が違う場合があり、申請書を送ることで、そのルールが特別に免除されるシステムがある。（年間1,000通ほど届く）



写真① 個別セッションの様子

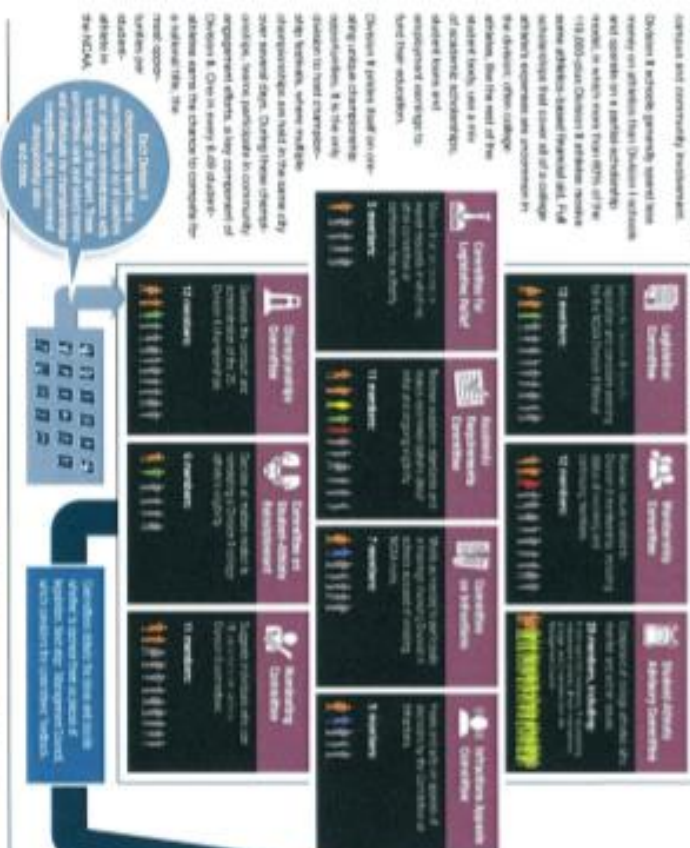


写真② 個別セッションの様子

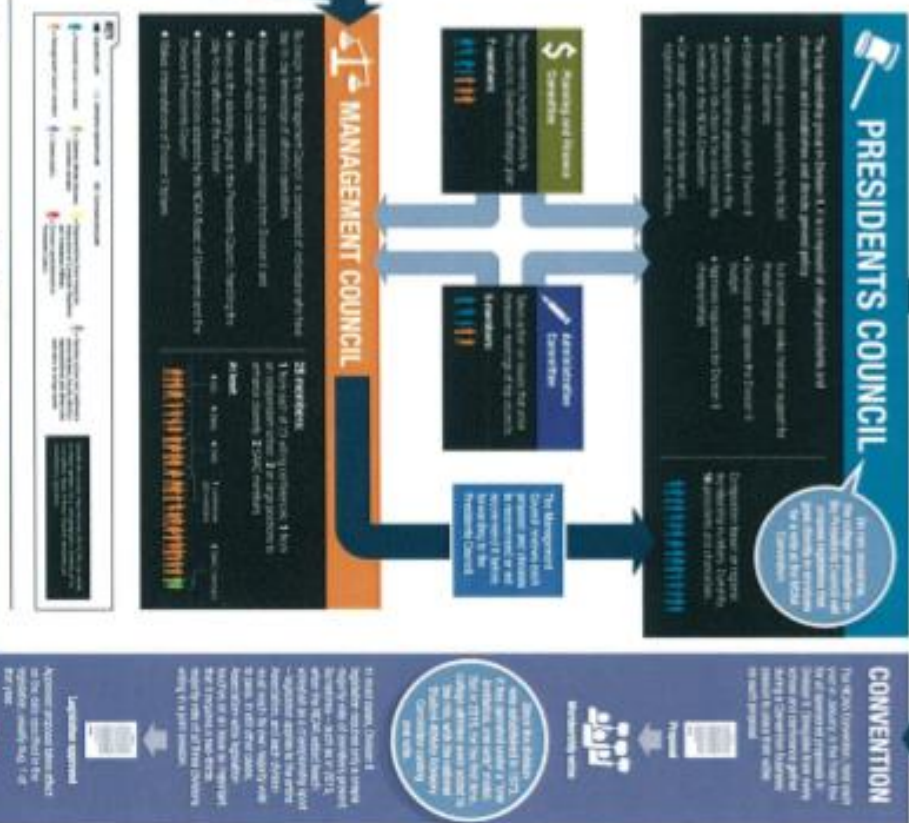
Division II

The 13 action themes (collaboration and innovation in Children's Union) are summarized in:

DIVISION II COMMITTEES



PRESIDENTS COUNCIL



55

PM：カリフォルニア大学アーバイン校（UCI：D1, No football）訪問

＜大学の特徴＞

1965年に設置されたカリフォルニア州アーバイン市に本部を置くアメリカ合衆国の州立大学である。カリフォルニア大学システムに属し、アメリカ東海岸の名門私立大学連盟アイビーリーグと同じ水準の教育が受けることができる公立大学群パブリック・アイビーのひとつに数えられ、米国の名門公立大学として認識されている。南カリフォルニアに位置するテックコーストの中でも、主にコンピュータ産業が集まる地域の中心に設置され、創立後40年弱で州立大学ランキングで10位以内に名を連ねた全米でトップレベルの州立大学である。これまでに3名の教職員がこの大学における研究でノーベル賞を受賞している。スポーツも盛んに取り組んでおり、バスケットボールや野球など23種の競技で全米大学体育協会（NCAA）主催の大会に参加している。過去セーリング、テニス、水球、バレーボールなど9つの競技で27回国内チャンピオンシップを獲得している。学校のマスコットはアリクイであり、応援歌に"Anteaters Go!"、訳して『ゆけ！アリクイたち』がある。男9、女9種目、計18種目のスポーツを支援している。ADの管理するスポーツ施設は、ADの学生アスリートのみが使用でき、一般学生は使用することができない。

＜主な施設＞

➤ Bren Events Center（写真④）

5000人収容可能な施設で、バスケットボールやバレーボールの練習や試合の他、卒業式や入学後のオリエンテーションなどの学校行事、コンサートなども行われる。施設における売り上げのほとんどは外部団体の利用によって賄われている。施設の稼働率は70%程度であり、週に2-3回練習以外の目的で使用されている。そして週末に試合を開催したり、試合がない場合は外部に貸し出したりということを行っている。施設に掲示している広告スポンサーなどは、外部委託している企業が契約業務などは行うが、スポンサー企業と大学で契約を結んでいる。

➤ Academic Center（写真⑤）

学生専用アスリートの学習支センター。学業支援センターの建物自体は州が建てたものだが、ランニングコストはADが支払っている。学力の向上への効果は間違いなくあった。設立前後で野球チームのGPAが高まっているという調査結果が出ており、他のスポーツについても同様に向上しているのではないかと思う。学生アスリートが卒業できるということが最優先であり、いつも学生に言っているのは、卒業する気がないのであればこの大学のチームにいなくても良いよ。ということを行っている。

➤ Carlos A. Prietto Sports Medicine Center（写真⑥）

学生アスリート専用のリハビリやコンディショニング施設で、ADに雇用された9名の常勤アスレティックトレーナー（AT）と1名の学生インターンシップで運営をしている。ATは18チームに対して1人2チームずつ担当している。チームドクターについては大学病院の医師が16人ほどいるので、彼らに支援してもらっている。学生アスリートは無料でケアを受けられる。

➤ Anteater Aquatics Complex（写真⑦⑧）

UCIにおける男女の水球プログラムの拠点。280万ドルの最先端施設は、2つの水球試合を同時

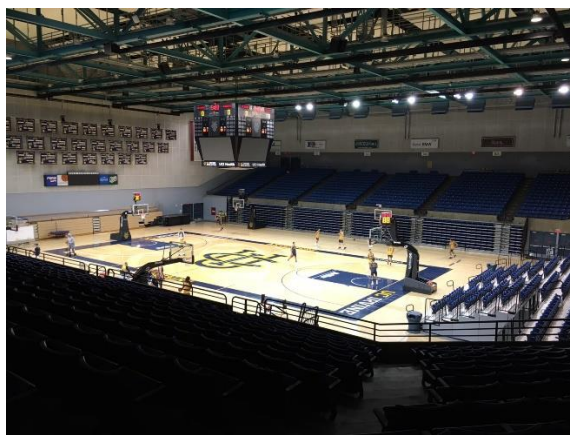
に実施できる広さがある。750 人の観客用テラス席、質の高いスタジアムライト、LED スコアボード等々を備えている。

➤ Cicerone Field at Anteater Ballpark (写真⑨⑩)

西海岸の大学の野球施設のトップの 1 つとして評価されている UCI 野球チームの本拠地。2007 年に完成したニューカークパビリオンには、プレーヤーラウンジとロッカールーム、コーチのオフィスとロッカールーム、トレーニングとランドリー施設、Anteater room と呼ばれる多目的の優先観戦スイートが含まれている。



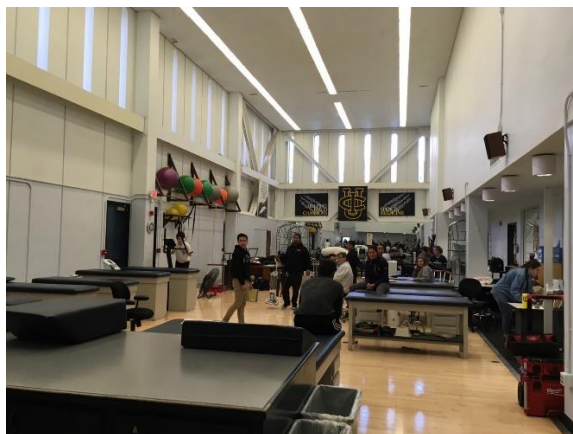
写真③ 「アリクイ」の前での集合写真



写真④ Bren Events Center



写真⑤ Academic Center



写真⑥ Carlos A. Prietto Sports Medicine Center



写真⑦ Anteater Aquatics Complex



写真⑧ Anteater Aquatics Complex



写真⑨ Cicerone Field at Anteater Ballpark



写真⑩ Cicerone Field at Anteater Ballpark

【研修 2 日目：1 月 22 日（水）】

AM：ゲストスピーカーによる個別セッション

① NCAA 財務管理 マネージングディレクター David LaFiosca

- NCAA の会計年度は 9 月 1 日から 8 月 31 日までとなっており、また非営利団体であって営利団体ではない。
- 利益の中より各ディビジョンに配分される点にある。D2 には 4.37%、D3 には予算全体の 3.18%を配分することが細則で定められている。
- D3 は最も加盟している大学の数が多く、所属する学生数も最も多い。その次に D1 の大学数と学生数が多くなっている。
- 放映権収入の中でも、その 92%は CBS とターナーからきている。これは男子バスケットボールの全米選手権のみによって生み出されている。(図 2 参照)
- チャンピオンシップにおけるチケット収入について、男子バスケットボールが主で 67%となっている。(図 3 参照)
- 収益の 58%は直接 D1 に配分されており、次に NCAA の運営全体に必要な費用 (24%)、それから D1 から D3 までのチャンピオンシップゲームの運営費として配分される。(図 4 参照)
- 奨学金などの学生アスリートへの金銭的な支援に使用するための予算配分は 24%を占めている。
- 支援しているスポーツの数によって割り振られる予算として、14 以上のスポーツを支援している大学に配分される。Student-Athlete Opportunity Fund (11%)、Academic Enhancement Fund (8%)、Special Assistance Fund (3%) は、学生アスリートのためにしか使用することが許されておらず、用途について報告義務がある。
- 今年から始めて導入された Academic Performance Fund (2%) があり、これは大学に所属する学生アスリートの学業成績によって配分される。11 億円が割り当てられており、GSR (Graduation Success Rate : NCAA 算出の卒業率)、FGR (Federal Graduation Rate : 政府算出の卒業率)、APR (Academic Progress Rate : 単位取得数による学習進捗率) のいずれか一つの基準を達成している場合に配分を受けることができる。今後 6 年間で約 53 億円程度まで増額をする計画をしている。NCAA ではそのくらい重要なものとして捉えている。

- チャンピオンシップに関わる費用について、総支出は約 199 億円となっており、そのうち半分以上（57%）は遠征費に使われている。3 つのディビジョンで 24 種目 90 大会実施。（図 5 参照）
- D2 についても収益の配分は行われているが、D1 に比べると微々たるものである。

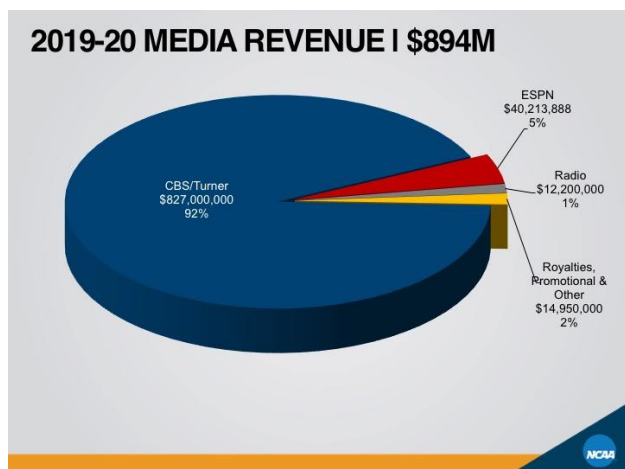


図 2 2019-2020Media Revenue

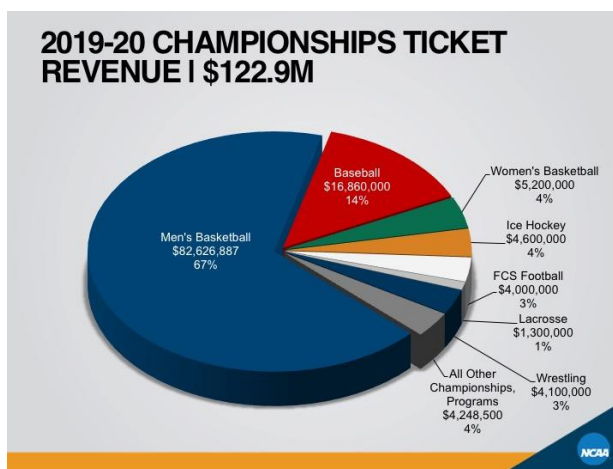


図 3 2019-2020Championships Ticket Revenue

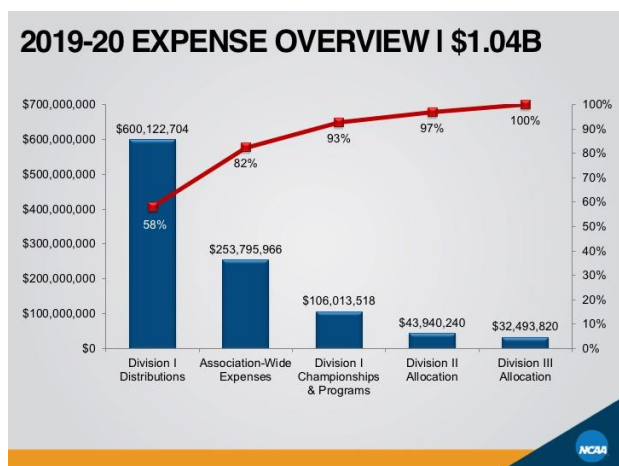


図 4 2019-2020Expense Overview

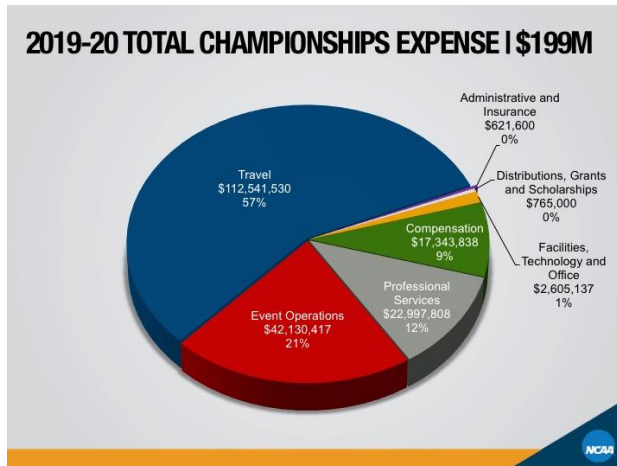


図 5 2019-2020Total championships Expense

② American Athletic Conference (D1) ガバナンス・コンプライアンス 副コミッショナー Ellen Ferris (以下、スピーチ内容要約)

大学の統括に関して 1 番重要な部分というのが競技スポーツは大学の一部であるということ。大学の傘の下に入っているというのが第一優先である。それが適切にできているかどうかを確認するために視察に行き、競技が大学のポリシーに則って行われているかどうかを確認するための様々な評価システムも存在している。

まず、守られてないといけないのは大学の学長がこの AD に関する最終的な権限を持っており、他のすべての部局と同様にコントロールすることができる状態でなければならない。その下に理事会があり、理事会もそれがきちんと行われているかどうかを日々確認していなければいけない。また、AD に学長が責任者（ディレクター）を派遣・任命して、その任命されたディレクターが他のすべての部局と同じように大学のポリシーやミッションに則って活動することを確認し、予算についても他の部局と同じプロセスで割り当てられる必要がある。

ディビジョンによって、大学によって AD がどの程度コントロールできているかどうかには差があり、特に D1 の有名校だと AD によって得られている収益がかなり多大になっており、そのような大学はどちらかというと大学のポリシーから乖離してしまっている側面もある。

このコントロールの部分で大切な 3 つのことは、まず NCAA 全体でシステムを作ること。2 つ目に大学ごとにシステムを作成する際は、達成できる現実可能なシステムを適切に作ること。3 つ目に、そのシステム自体をチェックするプロセス、確認が行われてフォローアップをし、システムがアップデートされるべきかどうかをチェックすることが重要である。

やはりシステムを作るときに、大学のミッション、目的、ポリシーに則って作られていることを最重要事項とし、そのシステムを教育し、みんなが AD であろうがなかろうが、スタッフ、学生アスリートにそのようなシステムがあるということを認知させる、教育の部分が非常に大切である。

もう 1 つ重要なのが、このシステムに則ってプロセスを守るのが重要だという雰囲気を作る。この雰囲気作りが重要である。まず学長から始まり、AD から、そのようなルールが絶対であり、破ってはいけないものという雰囲気作りが、規律を守っていこうという空気を作っていくことが大事である。

③ 南カリフォルニア大学 (USC : FBS) 副アスレチックディレクター Paul Perrier

- USC の特徴は、ロサンゼルスダウンタウン、経済地区のど真ん中に存在している大学であり、Power 5 (Autonomy と同意) と呼ばれる 5 つのカンファレンスに属する大学である。
- USC における学生の情報として、学部生が 25000 人、院生が 28000 人、合計で 53000 人と小さな土地の中にこれほどの人数がいるために人口密度の高い大学になっている。
- 昨年の大学への受験者数が約 66000 人で、そのうち合格したのが 7700 人、実際に入学したのが 3000 人ほどとなっている。
- 合計で 21 のスポーツチームがあり、9 チームが男子、12 チームが女子のスポーツとなっている。
- 最近女子に新しいチームを 2 つ配置し、ラクロスとビーチバレーが新しく追加された。毎年学生アスリートは約 650 人在籍している。
- 大学全体の予算について、寄付金で合計 5500 億円の寄付金を毎年受けている。大学からの予算が 5300 億円となっている。
- 昨年の AD 予算については 107 億円であった。同じライバル校のオハイオ州立大学やミシガン大学と比べると約半分程度で、かなり少ない予算で運営している。
- 経費について一番大きいのが学生アスリートへの保険や AD 職員の人件費となっており、合計 48 億円。その次に運営費であり、様々なプログラムを運営するのに 26 億円。一番少ないのが学生アスリートに付与されている奨学金であり、総額が 18.4 億円となっている。
- 学費が高額な大学となっているため、学生アスリートへの支援に 1 年間で 1 人あたり 750 万円掛かっている。
- 収益に関しては、フットボールが一番多く 32.3 億円である。この売り上げは毎年 7 試合のホームゲームを行う際のチケット販売とフットボールに関わる寄付金の合計が約 32.3 億円になっている。
- 「Autonomy (別名 Power 5)」でもある PAC 12 に所属する USC は D1 FBS に位置づいており、全米でもアメリカンフットボールでの収益が多い大学である。そのため、もフットボールに紐づいた

収益が多くなっている。

- 学業サポートには、20 人のフルタイム職員がいる。すべてのチームに 1 人のアカデミックアドバイザーが配属されていて、チームメンバーの学修状況を監督している。
- 近年特に重要視されているのが精神面でのサポートであり、そのサポートのために USC では 5 人の精神科医を雇用している。(現在 45 名の学生アスリートが利用している。)
- USC は過去にアメリカで最も多くオリンピックを輩出している大学で、1904 年以降で合計 455 人がオリンピックに参加していて、金メダルは 144 個取っている。
- USC が持つ特徴の 1 つとして、卒業生とのコネクションが強いことがある。今現在 37 万人ほど生きている OB/OG がいるが、そのうちの半数がカリフォルニアに住んでいる。
- 多くの課題があり、最も大きなものが学業での他の学生との差がある。学生アスリート以外で入学してくる学生の GPA が近年上がり続けている一方で、学生アスリートの GPA はずっと横ばいになっている。

④ Central Atlantic College Conference (CACC) 理事 Dan Mara (14 の大学が所属する D2 カンファレンスの理事)

- 所属している大学はすべて比較的規模の小さな私立大学であり、入学プロセスも似ている。勉強のレベルに少し差はあるが、規模や教育、競技スポーツに関する哲学や目的意識がとても似通った大学が所属するカンファレンスである。
- D2 の 1 つの特色として、すべての大学がスポーツの技能による奨学金を提供していることが挙げられる。
- CACC では、特徴の似た大学で構成されているため、カンファレンスとして強く統一することができている。
- 競技ごとの試合スケジュールを組み、審判員を派遣するのがカンファレンスの仕事である。
- カンファレンスは学生アスリートを学業、競技、地域貢献の 3 つの観点から評価し、賞を与えている。
- AD のスタッフ、学長、学生など様々な人に対して教育プログラムを提供している。(例：学生アスリートにはキャリア教育やリーダーシップトレーニングなどを行っている。)
- CACC は、所属大学における 14 人の学長によって運営されている。学長らの役割はカンファレンスの職員を監督することであり、自身もこの 14 人の学長の下で働いている。
- カンファレンスの資金は、所属する大学のカンファレンス登録費、NCAA から分配、カンファレンスと企業とのスポンサーシップ契約、放映権から得ている。
- CACC では 16 のチャンピオンシップゲームを開催している。CACC の規則では、チャンピオンシップゲームを開催するには 14 校中 6 校以上がその競技のチームをもっていなければならない。(他のカンファレンスで少ないところでは 12、多いところでは 24 のチャンピオンシップゲームを保持)
- CACC では週ごとにシーズン中のすべてのスポーツで最優秀選手が選出される。そのほかにも、最優秀新人賞や最優秀守備賞など多岐に亘る賞を提供している。
- 学生アスリートの活動について一般に発信している。(IMPACTFUL SERVICE：社会に影響のある活動を行った選手についての情報を公開する取り組み)

PM : ① Claremont-Mudd-Scripps (CMS : D3, 3 大学で一つの AD を形成) 連合 AD 訪問

＜AD 組織の特徴＞

CMS はクレアumontカレッジズ（5 大学と 2 大学院により構成される。）に属するクレアumont大学、ハーベイ・マッド大学、スクリプス大学という 3 つの大学のこと。クレアumont大学はリベラルアーツ教育を主として、Need-blind(入学試験の可否において家庭の経済状況、学費の支払いが一切考慮されない)に基づいて学生の選考が行われている。学生のインターンシップや留学といった経験に力を入れており、経済学や政治学に精通している。

クレアumont大学では、スポーツを大学のミッションの一つとし、大学生活の一部としてスポーツを捉えている。新生の 1/3 が学生アスリートで、学生数は 1300 人で 3 大学の中で最も大きい。ハーベイ・マッド大学は、900 人程度の学生を抱え、73%の学生に奨学金を提供している。また、スクリプス大学は女子大で 1000 人程度の学生を抱える。この 3 大学以外にクレアumontカレッジズに属する大学はポモナ大学とピッツァー大学で、この 2 大学同士でまた別の連合 AD を形成し、CMS とはライバル関係にある。

D3 では、AD の活動と体育、レクリエーションを統合している大学はよくあり、CMS は全米的にみても優秀なスポーツプログラムを持っている。500 人程度の学生アスリート、21 種目の競技で 17 名のヘッドコーチを雇用し、SCIAC カンファレンスに所属している。

体育については単位があり、授業はクレアumontカレッジズに属する 5 大学のどこで受けても良いことになっているが、卒業要件に体育が含まれている大学と含まれていない大学、GPA に影響しない大学と影響する大学がある。このシステムについては見直しを検討している最中である。

レクリエーションは全ての学生や教員に提供するサービスで、その目的としては運動に興味のない学生に対して興味を促し、健康意識を増させることである。非常に良い施設を用意しているが、学生がよりレクリエーションに参加するようになっていくことが課題となっている。3 つの取り組みとして、フィットネスクラス（単位無し）、イントラミューラル（学内リーグ）、競技連盟等が大会を主催しているクラブスポーツ（5 大学でチームを組んで他大学と試合をする）がある。レクリエーションのプログラムを組む際の課題は、AD のチームが使用している施設を利用するためにどのようにスケジュールを組むかということ、レクリエーションを重視する中で組織構造を変化させながら規模を大きくしていく必要があり、利用者の増加に伴ってどのようにコントロールするかを考える必要がある。さらに、活動が大きくなっている中でも予算がまだ追いついていない。

＜連合を組むことによる利点＞

1. 学生のリクルーティングの際に 3 大学のうちのどれかに入ってもらえば良い
2. クレアumontカレッジズに属する大学であれば、学生は 5 大学のどこでも授業を受講できる
3. 人種や学業に関して学生の多様性を確保できる
4. 連合を組むことによって、学生の母数が大きくなる
5. 3 大学のリソースを活用できるため、それぞれの負担が少なくなっている

＜連合を組むことによる課題＞

1. 大学によって入学や選考の条件が異なること
2. リクルーティング枠の基準が異なり、毎年学生アスリートの数や質を担保することができないこと
3. スポーツに関連した奨学金を提供できない学生アスリートがどのように修学資金を用意するか
4. 学生アスリートの学業基準が3大学ごとで多少異なっているためにコーチや学生アスリートへの理解を促す説明の手間がかかり、支障が生じている
5. NCAAの規定では、NCAAの競技スポーツに参加するためにはフルタイムの学生であることと、成績の基準を下回らないことが条件となっている。しかし、大学ごとに単位取得あたりの時間数に違いがあり、また評価が異なるため、コンプライアンス上の観点として学生アスリートの参加資格を満たすためにそれらをコントロールすることが課題
6. リードする大学であるクレアモント大学が、アドミニストレーターやコーチの雇用を務め、大学としてお金をかけている。

＜主な施設＞

➤ Jhon Pritzlaff Field (写真⑪)

本来サッカーフィールドで秋の間はサッカーに使用されているが、春学期の間はフェンスを設置して女子ソフトボールのフィールドとして活用されている。一つのフィールドを複数のスポーツに割り振らなければいけないという事情がある。

➤ Bill Arce Field (写真⑫)

綺麗なフィールドだが、野球場には照明がないので、日中しか試合や練習ができないのが難点。

➤ John Zinda Field (写真⑬)

陸上トラックの中にあるフィールドは、秋の間はアメリカンフットボールが使用し、春にはラクロスが利用している。

➤ Biszantz Family Tennis Center (写真⑭)

➤ Matt M. Axelrood Pool (写真⑮)

➤ Roberts Pavilion (写真⑯)

バスケットボールの練習や試合で利用される。その他、空いている時間にはイントラミューラル(学内対抗スポーツ活動)、クラブスポーツ(競技連盟管轄のスポーツ活動)も活用可能。3000人を収容でき、一番のライバル関係にある Pomona-Pitzer 大学の連合チームと試合をする際には満員近くまで観客が入る。

➤ その他 (写真⑰⑱⑲⑳)

施設の1階部分はロッカーになっており、シーズンによって使用するスポーツが異なり、秋の間は基本的にアメリカンフットボール部が使用している。2階にはスポーツ医療の施設が入っており、3階がADのオフィスになっている。トレーニング施設はADスポーツの学生アスリートも使用しているが、一般の学生も利用することが可能である。



写真⑪ Jhon Pritzlaff Field



写真⑫ Bill Arce Field



写真⑬ John Zinda Field



写真⑭ Biszantz Family Tennis Center



写真⑮ Matt M. Axelrood Pool



写真⑯ Roberts Pavilion



写真⑰ 施設の概観



写真⑱ トレーニング場

【研修3日目：1月23日（木）】

NCAA コンベンション 公開セッション

<セッション内容>

- Division III: Collaborative approaches – When Mental Health Intersects with Student-Athletes Identity
- Maximizing Athletics Department Assets: Branding, Event Marketing, Youth Initiative and corporate Partnerships
- Plays Well with Others: FARs and the Cross-Campus Connection
- Division III: Crisis Management: Being Your Best During Your Campus' Worst Days
- Engaging Your Campus Community on Student Athlete Activism
- Innovative Programs for enhancing student-Athlete Mental Well-Being and Mental Health
- Athletics Fundraising: Working Smarter, Not Harder with Technology tools and Tips
- GOALS Study: Understanding the Student-Athlete Experience
- Championship Hosting 101: How to Create a Winning Team?
- Division II: Mental Wellness-Building Trust Between Coaches and Student-Athletes
- Division III: Growing Our Next Generation of Leaders in Athletics Administration
- Social Media : The Future of Influence Leader
- Two Things Every University President and General Counsel Need to Know
- Supporting Student-Athlete Development with Budget-Friendly Programing



写真⑱ セッションの様子



写真⑳ セッションの様子

NCAA Plenary Session: State of College Sport NCAA 会長 Mark Emmert

<スピーチ要約>

今 NCAA に対してフェアネスに関することで社会から批判の声がある。関係者はフェアであると思っているが、その声を無視することはできない。大切なのは学生アスリートの成長と学生アスリートの人生なので、それを考えて進んでいきたい。アスリートの中には数は少ないが、プロへ行きたい学生もいる。プロへ行くのもキャリアなので、その声も無視できない。それについて議論していきたいが、やはり大切なのは学生アスリートであり、NCAA が考えている 3 つの理念である。

細かいトピックとして、NCAA で新しく決定したことが発表されていた。今までキャンパスで行われ

るホームゲームでアルコールを販売できるのはディビジョン I だけだったが、これからはすべてのディビジョンでアルコールを販売しても良いということが新たに決まった。これを採用するかしないかは大学の意思で決まる。アルコール販売にはリスクもあるので、大学によっては、どんなスポーツイベントでもアルコールを販売しない決断をするところもあるだろう。また貴重な収益源であるので販売するディビジョン II、III の学校も出てくるかもしれない。



写真⑳ エマート会長のスピーチ



写真㉑ 参加者での集合写真

【研修 4 日目：1 月 24 日（金）】

AM：研修の振り返り

- ① 参加者全員が研修への感想を発表
- ② テーマに関するグループディスカッション
 - 米国大学スポーツ（NCAA, AD など）のどの部分を日本に取り入れるべきか
 - 大学間、大学と企業間で協力できることや一緒に生み出せそうなことなど
- ③ 筑波大学 山田副 AD による総括

PM：UCLA 大学施設見学・ホームゲーム観戦

＜学内の施設・様子＞



写真㉒ UCLA のブックストア



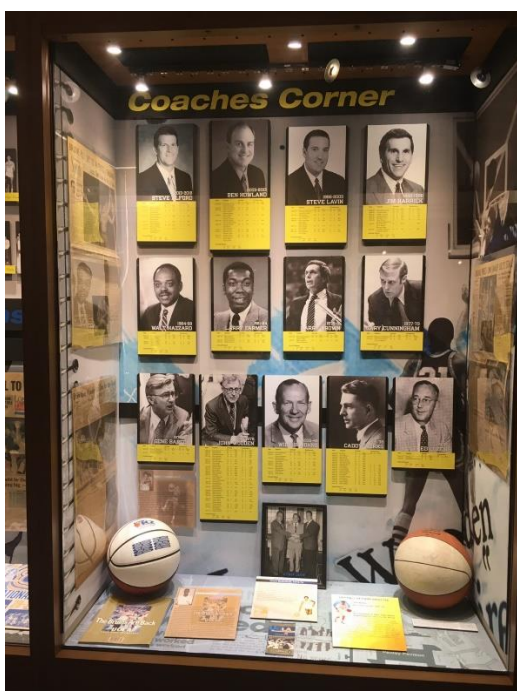
写真㉓ 試合告知



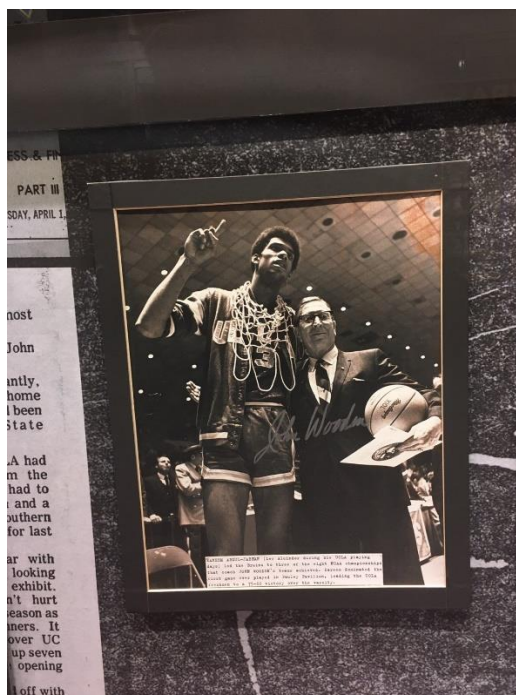
写真②⑤ Hall of Fame



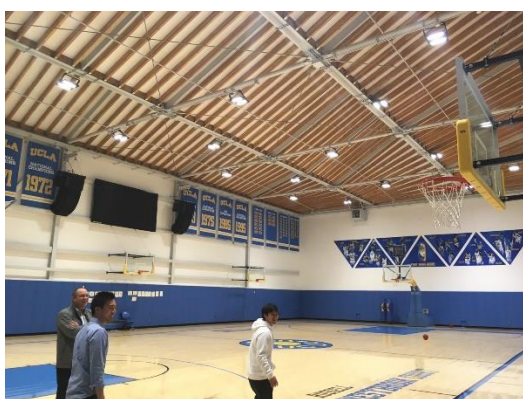
写真②⑥ Hall of Fame



写真②⑦ Hall of Fame



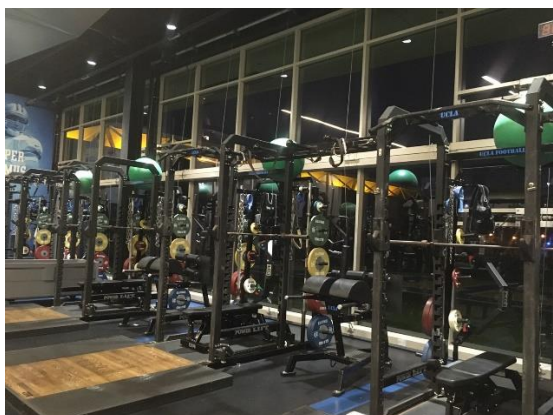
写真②⑧ Hall of Fame



写真②⑨ The Mo Ostin Basketball Center



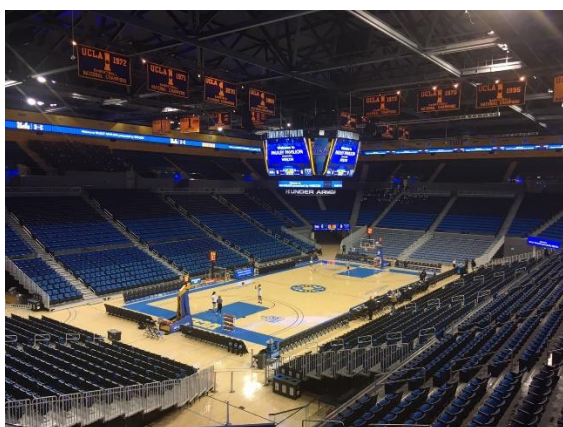
写真③⑩ The Mo Ostin Basketball Center



写真③① The Wasserman Football Center



写真③② イントラミューラル用フィールド



写真③③ Pauley Pavilion



写真③④ Pauley Pavilion

- The Mo Ostin Basketball Center (写真②⑨⑩)
男女バスケットボール専用の練習場。2年前にでき、NBA 選手を多数輩出していることから、彼らの寄付によってできた部屋には名前がつけられている。
- The Wasserman Football Center (写真③①)
2 年前に建てられたアメリカンフットボール専用施設。ワンストップで全てが完結できる。NFL 選手の卒業生の寄付によって作られたウエイトルーム。60 人程度が同時にトレーニングをすることが可能。4 階建てで、地下一階にはロッカールーム、1 階にはフィールドとトレーニング場。2 階には会議室、3 階にはコーチや監督の部屋がある。トレーニング場の壁が上がり、すぐにフィールドに出られるようになっている。
- イントラミューラル用フィールド (写真③②)
イントラミューラル用フィールド。AD のサポートを受けていないスポーツ活動が使用するフィールドで、サッカー、ラグビー、ラクロス、ゴルフなど、一般学生が楽しむことができる。6・8 面のサッカーコートが入るサイズ。

➤ Pauley Pavilion (写真③③④)

バスケットボールコートは、伝説的なバスケットボールコーチのジョン・ウッデンにちなんで「ジョン・ウッデン・コート」と呼ばれている。開催されるスポーツは男女バスケットボール、男女バレーボール、器械体操となっている。座席数は 13500 席。

＜ホームゲームの様子：女子バスケットボール UCLA vs Washington＞



写真③⑤ 試合前の様子



写真③⑥ 試合開始



写真③⑦ 電光掲示板



写真③⑧ 応援の様子

- 試合は延長の末、ホームの UCLA 大学が勝利した。
- 試合以外の部分で観客を楽しませる工夫が施されていた。(キッズのチアダンス、ブラスバンドの演奏、電光掲示板で観客をアップ、T シャツの投げ入れ、ハーフタイムや試合後のヘッドコーチインタビュー、大学やチームの動画配信等)
- 流れがホームチームに来ると観客は立って盛り上がっていた。

総 括

本研修に参加するにあたり、事前課題として①2018NCAA National Office でのセッションに関するレポート、②JAPAN COLLEGE SPORT RESEARCH PROJECT PHASE II 最終報告会、③NCAA HP (日本版) が配布された。その資料を読み、何となくイメージできていた NCAA という

組織の仕組みが、現地の研修に参加したことで、より詳細に理解することができた。

1 日目、2 日目の個別セッションでは、NCAA の関連部署で活躍されている方々から直接話を聞くことができた。話をしていただいた方の半数程度が女性であり、組織の重鎮として活躍されている様子が伺えた。また、この 2 日間の個別セッションでは日本人留学生で現在 UCLA 大学に通う早川君が通訳をしてくれた。専門的な用語が多い中、分かりやすく日本語に訳してくれた。そういった学生が通訳者であったため、実際の学生生活の様子を直接聞くこともできた。3 日目の NCAA コンベンションでは、学生が堂々と発言する姿やステージに登壇する姿が見られ、改めて学生のための組織であると感じることができた。内容に関しては、セッション終了後にお互いに共有したため、参加できなかったセッション内容も知ることができた。

研修の最終日には、UCLA 大学のホームゲームを観戦した。13,500 人を収容できる Pauley Pavilion で行われ、100 人のスタッフが動員されていた。中身の見えないバック等の持ち込みは禁止されていたり、入口は限定されていたりとセキュリティは非常に厳しいものであった。オープニングセレモニーでは、ホーム校のチアガールやブラスバンド部の学生が会場を盛り上げるようなパフォーマンスを披露していた。バスケットボール競技を専門としている私にとって、試合をしている学生アスリートの個人技の高さは魅力的であった。また、両チームとも女性が指揮を執っており、その感情表現の豊かさや服装の派手さ（ピンクのドレスにハイヒール）に驚かされた。NCAA 独自のルールを適用しており、1 回の攻撃時間が 30 秒（通常は 24 秒）であったり、ボールを保持している選手がタイムアウトを要求できたりというルールがあった。また、観客の盛り上がりも日本のそれを超えるものであり、いいパフォーマンスに対してのスタンディングオベーションには思わず便乗してしまった。試合は延長の末、ホームの UCLA 大学が勝利した。

今回の研修では、NCAA の役割として 3 つの理念：①学生ファーストの考え方（目的=学生アスリートの人生の成功）、②大学における競技スポーツの位置づけ（=大学の教育理念やミッションの一部であるということ）、③総括組織である（あくまでもボトムアップ型の組織運営ということ）に対して理解が深まった。また、長年をかけてより良い組織になっている NCAA でも課題は多くあり、解決に向けて変化し続けているという現状も印象的であった。当然のことながら、日本ですべてを取り入れることは不可能であり、どの部分を参考にして取り入れ、また UNIVAS のオリジナリティとしてどのような活動をしていくのかということを考えていく必要があると感じた。

（文責：中尾 綾）

8. 美浜町スポーツ推進計画策定について

美浜町では、これまで「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」健康でいきいきと活躍できる生涯スポーツ社会の実現を目指し、地域に根ざした様々な施策や事業に取り組んできました。こうした中、町内のスポーツ活動をさらに推進するとともに、スポーツを取り巻く社会環境の変化に対応し、スポーツ交流人口の増加による地域の活性化を図るなど、スポーツを通じた活力あるまちづくりを目指すため、「美浜町スポーツ推進計画策定委員会」を設置し、「美浜町スポーツ推進計画」を新たに策定しました。スポーツ科学センターでは、本計画の策定に関する下記の業務を受託し、計画策定を支援しました。

(1) アンケート調査の実施

美浜町の運動・スポーツ実施状況等の現状や課題を把握し、計画策定の基礎資料とするため、アンケート調査を実施。

- 調査対象：美浜町在住の18歳以上の方から無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：平成30（2018）年11月15日～12月3日
- 回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率
2,200 件	1,054 件	47.9 %

(2) パブリック・コメントの実施

町のホームページにおいて、計画策定にあたってのご意見及び情報を広く町民から募集。

- 募集期間：令和2（2020）年1月10日～1月31日

(3) 関係団体意識調査の実施

スポーツ関係団体をはじめ、教育や社会福祉、商工観光などスポーツを通じたまちづくりに関係する団体を対象としたアンケート・ヒアリング調査を実施。

(4) 先進地の視察支援

スポーツによる地域振興やまちづくりを推進している先進地を訪問し、行政のみならず、町民、スポーツ団体、民間企業等が連携してスポーツ施策を展開している事例を視察。

- 視察期間：平成30（2018）年7月31日～8月1日
- 視察先：田辺スポーツパーク（和歌山県田辺市）、上富田スポーツセンター（和歌山県上富田町）

日本福祉大学スポーツ科学センター年報 第4号
令和元年度 (2019)

令和 2 年 5 月発行

スポーツ科学センター関係教員	山本秀人 (センター長：子ども発達学部 教授) 植田真帆 (スポーツ科学センター 助教) 坂口結子 (スポーツ科学センター 助教) 中尾 綾 (スポーツ科学センター 助教)
編集責任	中尾 綾

日本福祉大学スポーツ科学センター	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前 35-6 日本福祉大学 Sport Lab SALTO 3 階 TEL : 0569-87-2396 FAX : 0569-87-2291 E-Mail : sports-edu-office@ml.n-fukushi.ac.jp
------------------	---
